知っとる？子育て応援book

県内全市町の
子育て支援情報を
ひとまとめ！

子育てしやすい みえ

くらしの電話相談

みえ子ども医療ダイヤル
(毎日19:30～翌朝8:00)
#8000 または059-232-9955

不妊専門相談センター
相談専用電話 059-211-0041
(毎週火曜日10:00～20:00)

子どものこころの相談
三重県小児心療センターあすなろ学園
059-235-5556
(月～金9:00～12:00、13:00～17:00)

こども家庭相談
059-233-1425
(年末年始を除く毎日13:00～21:00)

児童相談
189
(月～金8:30～17:15)
※お近くの児童相談所へつながります

子どもの救急

子どもの救急対応マニュアル
https://www.qq.pref.mie.lg.jp/kodomo/

三重県

制作：レディオキューブ FM三重

index

『知っとる!? 子育てしやすいみえ』

座談会 in MieMu …… 03

「子育てしやすいみえをめざして〜それぞれの思い〜」

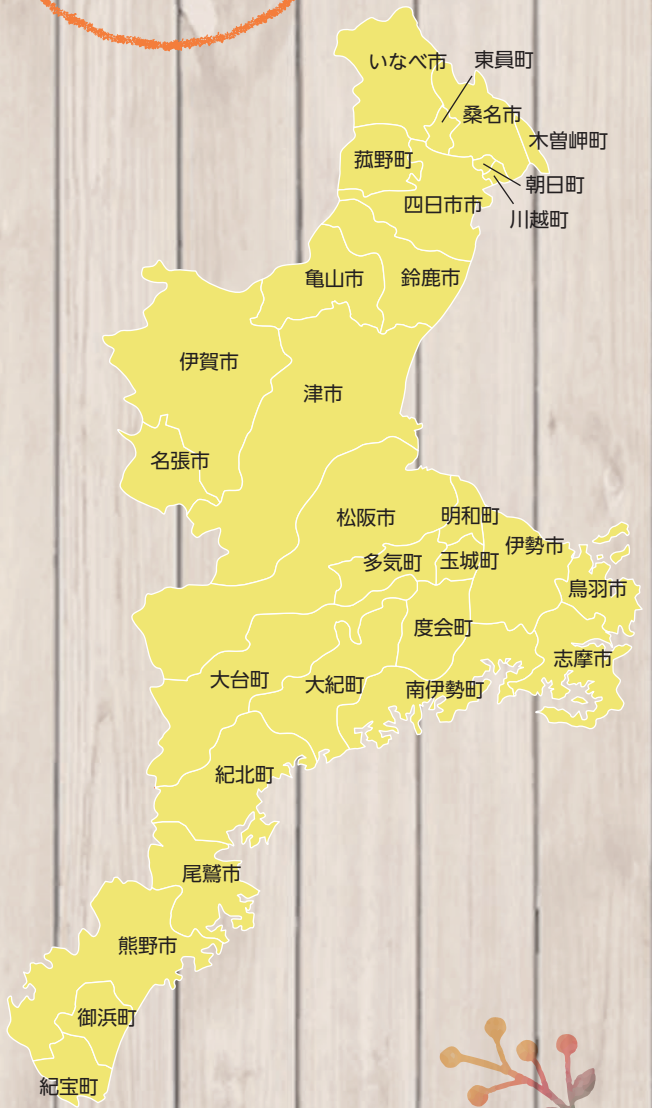
子育て支援グループ紹介

スマイル LIVE …… 09

市町の子育て支援情報 …… 19-76

三重県の子育て支援情報 …… 77-78

市町の子育て支援情報



桑名市 19
いなべ市 21
木曽岬町 23
東員町 25
四日市市 27
菰野町 29
朝日町 31
川越町 33
鈴鹿市 35
亀山市 37
津市 39
松阪市 41
多気町 43
明和町 45
大台町 47
伊勢市 49
鳥羽市 51
志摩市 53
玉城町 55
度会町 57
大紀町 59
南伊勢町 61
伊賀市 63
名張市 65
尾鷲市 67
紀北町 69
熊野市 71
御浜町 73
紀宝町 75

子育てしやすいみえ 座談会 in MieMu

〈 日　時 〉平成27年12月8日(火)11:00〜12:00
〈 場　所 〉MieMu(三重県総合博物館)3階 学習交流スペース
〈参 加 者〉(敬称略)
井原 敬子(東員町生活福祉部健康保険課保健師)
小西 隆緒(第2回ファザー・オブ・ザ・イヤーinみえ大賞受賞者)
草部 豊美(名張市民生委員主任児童委員)
鈴木 英敬(三重県知事)
〈司会・進行〉**西本 亜裕子**(レディオキューブ FM三重アナウンサー)

井原 敬子　小西 隆緒　草部 豊美　鈴木 英敬　西本 亜裕子

県では、結婚や妊娠、子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つことができる環境づくりをめざして、「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」を策定し、さまざまな事業に取り組んでいます。子育てしやすい三重となるために、大切なことは何か、県内各地で子育てに関わる方々をお招きして、本音で語り合っていただきました。

子育て家庭を支える人がたくさんいる三重

西本: それぞれ子育てや子育て支援について、知事から順にお一人ずつお話を伺いましょう。

知事: 長男が4月から幼稚園に通うので、先日説明会に行きましたら、60人ほどの参加者の中で男性は3人くらい。正直残念でしたね。もっと男性がいることがあたりまえになる三重にしたいと思いました。

草部: 私は民生委員の主任児童委員で、子どもを専門にするという立場で活動しています。名張市は他の市町と違い、新しく生まれた赤ちゃんのご家庭を訪問する事業を主任児童委員が行っています。近所のおばちゃんが地域のことも教えてあげるわねという感じで訪問しています。

Symposium

小西: 僕と妻は再婚で、14歳の子どもと、新しく授かった赤ちゃんの父親になりました。妻は仕事を続けていて、その仕事が忙しくなり、どうしても妻のために、子どものためにもっと子育てに関わりたいと思い、会社で初めて3カ月間の育児休暇を取らせていただきました。育児休暇を取る際はちょっと不安もありましたが、会社にそのことを伝えると書類を出すだけでいいと、すんなりと認めてもらえたことが大変ありがたかったですね。

井原: 私も子育て真っ最中ですので、地域のお父さんやお母さんたちの悩みを聴きながら、一人の親として、また保健師という立場でお手伝いしたいと、日々思っています。今はスマホの時代で、「情報はたくさんあるのですが、多すぎて、やっぱり生の声が聞きたい」というお母さんたちのお話を耳にすることが多いかなと思っています。

西本: 私も小学1年生の男児とこの4月に入学する女児をもつ2児のママとして、子育てをしながら仕事をしていますが、皆さんのお話を伺って、それぞれの立場での思いや考えがわかりました。地域の取り組みや支援はいかがでしょうか?

地域みんなで子育てに関わる環境が必要

知事: 地域ごと、家族ごとに子育てというのは違うので、それぞれ違いを認めながら、それぞれにきめ細かな支援を準備していかなくてはいけないと思っています。名張市や東員町の取り組みは大事なことなので、県は横断的に人材の育成のサポートや、市や町の境を越えたネットワークづくりのサポートなど、それぞれの地域に応じた子育て支援ができればいいなと思っています。子育ても、支援も正解がないので、「三歩進んで二

子育てしやすいみえ
座談会 in MieMu

Symposium

歩下がる」中でも一歩ずつ前進するという気持ちを県内の皆さんにも持ってもらえるとうれしいと思います。

西本：草部さんは、名張で子育て支援ボランティア「おじゃまる広場」の代表も務められていて、ここにもたくさんのママや子どもたち、中にはパパも来られると思いますが、こうした皆さんの生の声を聞いていて、こんな助けをしたいなとかこんなふうにできたらいいのにとか思うことはありますか。

草部：赤ちゃん訪問をした際に、「こんな広場が地域にあるよ」と紹介すると、その1、2カ月後に参加してくれる人が多いですね。ここはおばあちゃん世代のボランティアが多いのですが、赤ちゃんと二人、家で煮詰まっているママたちが来て、いろんなママ友をつくることもできますし、私が思う「おじゃまる広場」の最大の特徴はこうした世代の方との交流だと思います。ボランティアは心構えとして、「これは正しい」「これは間違っている」と絶対に言わないようにしています。聞かれたら、「私はこんなことしてみたけど、どうかな」「こんなことも一つの方法かな」というふうに言うようにしています。それが、ママたちにとっても、「じゃあ私はこうしよう」と思えるような場になっているのかなという気がします。

西本：なるほど。三重県内の全ての市町、日本全国において地域のみんなで子育て支援ができるようになれば、例えば産休、育休を取る時に負い目を感じるとか、子どもが熱を出した時も「ごめんなさい」と逃げるようにしなくても済むと思うんですけどね。井原さんの保健師としてのお仕事は、ママたちの手に届いてほしいような活動ですね。

井原：そういっていただけるとうれしいです。私たち保健師はSOSを出してもらえば、いつでも相談に乗りますよというメッセージを伝えています。あとは、自分たちで自信を持って育児に取り組めるように、お母さんやお父さんの強み、いいところをできる限り私たちが見つけて、フィードバックすることで、育児に少しでも自信が持てるようにお手伝いさせていただいています。

男性も子育てに参加できる社会に

西本：ところで、小西さんのご家庭では、お子さんが1歳、今はお仕事と子育ての両立というのは、奥様を含めてどのようにされているんですか。

小西：私と妻のローテーションといったらおかしいですが、もちろん私も妻も働いているので、できる方がやるというように交互にうまい具合にやっています。

子育てしやすいみえ
座談会 in MieMu

Symposium

西本：井原さんのお宅はどうですか。ご主人の育児への参加、仕事との両立は。

井原：一人目の時はほとんどしていないに近い状況でしたが、二人目ができて私が二人目にかかりきりになっていると結局やらざるをえない状況になり、私が職場復帰してから、どうしようもない状況も理解してくれているので、掃除や洗濯、子どもの世話など、やってくれるようになりました。

小西：僕は育休中、周りと関われない疎外感や赤ちゃんと話していても独り言になってしまう寂しさなど、本当にいろいろなストレスが溜まることがわかりました。だからこそ、男性が育休を取ることが当たり前になるような世の中になってくれればいいと思います。私が大賞をいただいたことをきっかけに、私の部下や友達など、男性の育児休業取得者が増えたり、子育てに積極的に参加するお父さんが増えたり、地域社会が子育てにやさしくなってほしいなと思います。

知事：そのためにも職場の理解を進めていく「イクボス」の取り組みをしっかりやっていかなければいけないなと思います。これまでは男性に対するアプローチが少なかったと思います。これからは、職場の理解を進めていく「イクボス」が生まれてくる環境をつくっていかなければいけないと思います。

子育てしやすいみえをめざして〜それぞれの思い〜

西本：最後に、それぞれ子育てについて思うことをひと言ずついただけますでしょうか。

井原：子育てに一生懸命になっているとどうしても「できていない」ということが多くて、こちらが「できてるよ」と思っても、お母さんたちは「私としてはまだできていない」ということが多いんです。ですので、私はお母さんやお父さんがそう言ってきたら、「こうやってお母さんは言うけど、それはプラスに考えるとこうだよね」というような形でプラスに返すようには心がけています。

小西：私は、「ファザー・オブ・ザ・イヤー」という賞をいただきましたが、育休を取ることが賞をもらうことになるのではなく、あたりまえになるような社会になればいいと思います。

草部：名張市が進めている「ネウボラ」という切れ目のない、つながった支援というものを意識しながら、実は「切れ目のない人のつながり」がすごく大事だなと思うことが日々あります。私としてはそれを広げる、つなげるという役目を果たしていきたいと思っています。私が関わっているのは、結婚、出産を経て、子育て中もずっとつながりを持って子育てを支援していくことです。近所に住んでいるおばちゃんが関わるというところが一番のメリットだと思います。行政的にはそれをしっかり形づくって、人員を配置していくことに力を入れることで広がるのかなと思っています。

知事：正解のない子育てですけれども、その一人ひとり、一つひとつの家族がしっかりサポートされるように、お母さん、家族、子どもたちの支援をしっかりしていきたいと思いますし、そういう中で「子育ては大変だけど、楽しいし、幸せだね」と思ってもらえる三重県にしていきたいと思います。そして、何より男性もしっかりと子育てに参加をして、家族全部で子どもたちを支えていく子育てをしていくんだというムーブメントを起こしていきたいと思っていますので、頑張ります。

マイスル LIVE

三重県には、子育てを応援しているさまざまな人たちがいます。
子育ての負担を少しでも和らげ、子育てを楽しむために、ママたちが明るく、楽しく集える場所を作ったり、子育ての悩みや相談に応じてくれたり、いろいろな活動を通してサポートしているグループを紹介します。

ミエメン 【県域】

「父親ならでは」の子育て参画を支援。子どもたちと“ナナメの関係”で関わる活動をしています。

“ナナメの関係”とは、地域の中で教えてくれたり、叱ってくれたりする大人、いわゆる「近所のおっちゃん」のような存在のこと。津・松阪近郊の30～40代の現役パパ5名が中心となり、パパが自分の特技や経験を活かして、レゴワーク、段ボール工作、ヒーローごっこなど、子どもたちの思い出に残るような、豊かな成長につながる、父親らしい企画を行っています。ほかにも、母親向けセミナーなどでの子どもワークショップの開催や、子育て支援動画の作成、家族で参加できる子育てサロン、出張ワークショップなどを行っています。

■主な対象／4歳～小学生
■主な活動拠点・場所／津市・松阪市・四日市市
■活動日時／不定期
■費用負担／交通費、イベント開催費など

■連絡先／
miemen260101@gmail.com
■代表／川端 賢一さん

おもちゃの病院 【県域】

エコロジーと物を大切にする心を育てることを大切に活動しています。

■主な対象／100V電源を使わない玩具（精密機器・アンティークなどは除く）
■おもちゃの病院のある場所／いなべ市・桑名市・東員町・川越町・菰野町・四日市市・亀山市・鈴鹿市・津市・松阪市・伊賀市・名張市・鳥羽市・玉城町・伊勢市・御浜町・紀宝町
■費用負担／部品代

「おもちゃの病院」とは、文字通り壊れたおもちゃの修理をしてくれるところです。県内には19カ所あります。「三重おもちゃの病院連絡会」会長で「菰野町おもちゃ診療所」代表の加藤さんは、「壊れたおもちゃを直すことで、物を大切にする心を育ててほしい。メンバーはすべてボランティアですが、直ったおもちゃを手にした時の子どもたちの笑顔が最高のやりがい」と話していました。中には、リユースや科学教室を開催しているところもあります。

■連絡先／三重おもちゃ病院連絡会事務局　059-230-0827
■代表／加藤 健一郎さん

ちょいわるおやじの会 【県域】

古い価値観にとらわれず、家事や育児、地域活動に前向きに取り組んでいる50代男性が中心の団体です。

男性が家庭や地域に参画するためのノウハウを学ぶ「人材養成講座」の受講生が集まり、結成しました。「遊び」を通じた子どもとの関わり方をテーマに独自で体験教室や自然観察会などを開くほか、津市、松阪市をはじめ各地のイベントなどに出店し、親子で参加できる体験教室などを行っています。体験教室は、子どもたちが自分で遊び道具をつくるもので、紙飛行機づくり、竹ぽっくり、紙でつくる竹トンボなど、メニューも豊富です。

■主な対象者／子ども、保護者
■活動日時／不定期

■連絡先／
090-1828-4834
■代表／藤川 和彦さん

NPO法人 MCサポートセンター「みっくみえ」【桑名市】

小児科医や助産師などさまざまな専門家たちがママをサポート。ママと子どもの心とからだの健康を応援します。

■主な対象者／女性と子ども、その家族
■主な活動拠点・場所／（特）MCサポートセンターみっくみえ事務所、桑名周辺市町、桑名市内公共施設
■電話相談 平日9:00～17:00 土日祝 9:00～12:00
■費用負担／なし

核家族が進む一方で、さまざまな情報があふれていて、迷ったり、不安になったり、一人で悩みを抱え込んでいたりするママが多いのではないか…そんな想いから「みっくみえ」は始まりました。スタッフには、助産師・看護師・管理栄養士・小児科医師・歯科医師・保育士がいます。妊娠・出産という大きな変化を経験するママたちをサポートすることで、子どもたちの心身の健康につながると考えています。日々成長する子どもたちの心や体のこと、「些細だけど、心配」「なんだか気になる」ことを各分野の専門スタッフがサポートしています。電話相談も行っていますので、お気軽にご連絡ください。

■連絡先／0594-21-4935
■代表／松岡 典子さん

NPO法人くわな子育て支援ネットワーク「Wonder Pocket」【桑名市】

合言葉は「みんなで子育て♪」今しかできない子育てをみんなで楽しんでいこうと活動中。

子育てサークルなどで活動してきたメンバーが集まって活動しています。みんなで力を合わせればラクに楽しいことができるはず！兄弟やご近所との交流が少ない今だからこそ、親子で安心して参加できる場を提供し、子どもたちだけでなく親である大人も楽しく「仲間づくり」できるようお手伝いしています。そして、そこに集まる子を「みんなで子育て」し、親も子も、みんなで助けあいながら輪を広げています。親子で参加できるイベントのほか、親子合宿や「アドラー心理学」に基づく子育て講座なども行っています。

■主な活動拠点・場所／新西方コミュニティセンター、桑名市
■活動日時／不定期

■連絡先／070-5330-9870
npo.wonderpocket@gmail.com
■代表／藤田 壽花さん

NPO法人「体験ひろば☆こどもスペース四日市」【四日市市】

子どもの育つ力を引き出す体験がいっぱい！！子どもも大人も居心地の良い居場所もあります。

■主な対象者／0才から大人
■主な活動拠点・場所／こどもスペース事務所
■火～土曜日　10:00～20:00（居場所利用についてはお問い合わせください）
■居場所利用／無料
※facebookで最新情報更新中

子どもには自ら育つ力があり、それはたくさんの体験の中で育っていきます。子どもに必要な体験とは、生活・自然・社会体験、そして文化芸術体験・異年齢の子どもたちとの交流・多様な価値観の大人たちとの出会いなどです。主な体験活動として、就学児とその親を対象とした親と子がともに育つ保育の場「プレイセンター☆こどもスペース四日市」や、小学生の自然体験「トムソーヤの森の家」、ダンスワークショップで気持ちを表現し、仲間づくりをする「PUZZLE」などがあります。また、居場所開設もしています。開所時間内であれば、いつでも来て遊んだり勉強したりできます。

■連絡先／059-321-0883
■代表／水谷 孝子さん

NPO法人「どんぐりの会」【津市】

子どもたちがのびのび成長できる場づくりをしながら、働くパパ・ママを全力でサポートします。

私たちは、誰もが安心してのびのびと生活・子育てができる環境と、教育格差のない社会をめざしています。ひとり親家庭、共働き世帯と多様化する家庭環境の中で、パパもママも子どもたちも、さまざまな悩みや苦労があります。それをため込まず吐き出せる場所、サポートできる環境を提供したいと考え、働き方に合わせたサポートを行っています。子どもたちが積極的に学習に取り組む環境や、体力の向上はもちろん、学童保育の中での友達への思いやりやルールを守る大切さ、年下の子の面倒を見ることなどさまざまな体験を大切にしながら、成長の手助けをしていきたいと考えています。

■主な対象者／小学生・ひとり親家庭など
■主な活動拠点・場所／津市・広域対応型学童保育「どんぐりの家」
■活動日時／平日放課後～夜間、土日祝、長期休暇中（事前にお問い合せください）

■連絡先／059-273-6966
■代表／木﨑 芙美さん

Little Coder Mie(リトル コーダー ミエ)　【津市】

「楽しい」を自ら創造する子どもたちを育てたい。たくさんの子どもたちにITに触れてもらいたいと考えています。

■主な対象者／小学生以上
■主な活動拠点・場所／津市など
■活動日時／不定期

コンピュータプログラミングを身近に感じてもらうための活動をしています。LEDやモータを使った簡単な工作や、アニメーション、ゲーム作りなど、ほかでは体験できない企画を実施。未来のITの発展を担う子どもたちのサポートをしています。絵を書いたり、ブロックを組み立てたりするように、コンピュータを使った「ものづくり」を楽しんでほしいです。女の子の参加者も多く、初めてのプログラミングを楽しむ姿が見られます。多くの子どもたちにワークショップを体験してもらい、成長してほしいと願っています。

http://ws.moyashi-koubou.com/

■連絡先／ws@moyashi-koubou.com
■代表／石黒 光茂さん

大門いこにこ広場　【津市】

未就学児と保護者のための広場。親子が楽しく遊べるようにさまざまな工夫をしています。

津の中心、大門商店街にある「気軽に参加できる親子の遊び場」として、たくさんの親子が楽しい時間を過ごしています。家ではなかなか遊べない大型遊具をはじめ、おままごとのおもちゃや絵本なども充実しているので、子どもも飽きることなく遊ぶことができます。フロアには全面スポンジタイルが敷いてあるので、子どもが走り回っても安心。また、商店街のお店からランチやおやつのケータリングサービスを頼むことができるのもうれしいポイント。経験豊富なコーディネーターが手遊びやダンスを教えてくれる「あそびのじかん」(毎週火曜日開催)も大人気です。

■主な対象者／未就学児と保護者
■主な活動拠点・場所／大門大通り商店街・オーデンビル
■活動日時／火～日曜日　10:00～17:00
■費用負担／なし

■連絡先／059-273-6536
■副実行委員長／華崎 ちなみさん

NPO法人世界SHIENこども学校のびすく　【津市】

遊びから考える力を育んでいけるよう、たくさんの大人が関わりながらサポートしています。

大人が本気で経験や知識を使って教えながら、子どもたちにも本気で遊んでもらって、遊びから生きる力や人間力を育てていけるようサポート。「のびすく」に来ていただいたすべての方が先生であり生徒です。また、ママカフェ事業では、ママと赤ちゃんの心の安らぎの場になればと、ハーブティーやお菓子を囲みながら子育ての悩み相談を行っています。医療機関や専門職とも連携しているので困ったときはすぐ力になることができます。ママも子どももいろんな方たちと関わることで孤立せず安心して成長していける場になればと思っています。

■主な対象者／赤ちゃん～大人まで
■主な活動拠点・場所／津市乙部4-17
■活動日時／平日9:00～19:00　土曜日・長期休暇7:30～19:00　日曜日・祝日9:00～19:00(不定期) ※延長制度、宿泊制度もあり。電話相談　毎日8:00～20:00
■費用負担／ママカフェ利用費　1家族1回500円 年会員制度もあり

■連絡先／059-253-3130
■電話相談ダイヤル／0120-279184
■代表／松井 強さん

子育て応援プロジェクト★パイン【松阪市】

子育て中のママたちが地域で連携しながら、子育ての中の孤独感をなくし、よりよい育児環境づくりを行っています。

■主な対象者／0～3歳の未就学児とその親
■主な活動拠点・場所／松阪市内
■活動日時／月2回

子育て中のママが孤立せずに、地域の中で元気に子育てできるように、親子で参加できるイベントを開催しています。月2回のレギュラーイベントとして、音楽の特性を利用して子どもの持つ力を発揮させる「ミュージックケア(音楽療法)」を実施するほか、季節やニーズに合わせて親子で楽しめる特別講座を月2回実施。講師を招いて、バルーンアート、イモ掘り体験、似顔絵教室なども開催し、子どもたちだけでなく、ママたちも楽しく交流しています。また、自治会などと連携した地域・世代間の交流イベントも行っています。

http://ameblo.jp/projectpine/

■連絡先／yumistar0207@gmail.com
■代表／酒井 由美さん

多気町まちづくり仕掛人塾　子ども未来応援委員会　【多気町】

未来を担う子どもたちの「育ち」を地域全体で支えていこうと、子どもと大人が一緒に活動しています。

遊ばなくなったおもちゃなどを交換しあう人気のイベント「かえっこバザール」を年2回程度実施しています。子どもたちと一緒に企画し、楽しみながら活動しています。また、「子育ち・子育て・自分育ち」をテーマに、大人が子どもと関わる中で大切にしたいことを学ぶ勉強会も年2回程度（不定期）で開催。トークカフェや講演会、映画会などを実施しており、さまざまな立場の人が世代を超えて集まります。勉強会はキッズスペースを設けているので、子ども連れでも安心して参加できます。

■主な対象者／どなたでも
■主な活動拠点・場所／多気町
■活動日時／不定期

■連絡先／
tmskodomo@yahoo.co.jp
■代表／明石 須美子さん

NPO法人大杉谷自然学校　【大台町】

日本一の清流、宮川が流れる大台町。自然や暮らす人がお手本となり、未来を生きる子どもたちにさまざまなヒントを与えます。

子どもは自然の中でゆっくり遊び、大人はそっと寄り添い見守ります。思いやりの心や感性がキラリと輝く瞬間を、大台町の森でみつけましょう。「森のようちえん」は春を感じる森あそびや夏の小谷探検、秋には落ち葉や枝を集めて焚き火など、季節の移り変わりを五感で感じられる体験がいっぱいです。昼食は旬の食材を使い、野外炊飯で手作りします。「宮川の上流の里山遊び」ではいつもと違うフィールドに出かけます。すべての体験において、自由遊びが基本。遊具は無くても自分たちで遊びを見つけて思いっきり楽しみます。

■主な対象者／3歳（年少）～6歳（年長）の幼児とその家族
■主な活動拠点・場所／子ども王国・大台町内

http://osugidani.jp/
■連絡先／0598-78-8888
■代表／谷口 忠夫さん

ぷらっと家　【志摩市】

親子向けイベントの実施などを通して、志摩の子育て情報を発信しています。

イベントや子育てサロンを通して親子のつながりを深め、子育ての不安を解消するための情報発信などを行い、地域と親子をつなぐお手伝いができたらと考えて活動しています。イベントは、子育て支援のフリーマーケットや親子でのパン作り教室、いも掘り・地引網体験など、農業や漁業をテーマにした志摩ならではの企画もあります。また、小学校のベルマーク活動の支援や学校行事への協力等もしています。お父さんの参加を増やそうと、ロケットコンロを使ったアウトドアのイベントも増やしています。

■主な対象者／親子
■主な活動拠点・場所／主に志摩市内
■活動日時／不定期

■連絡先／
090-1410-8289（山本さん）
■代表／山本 寿絵さん

しま子育て応援団　【志摩市】

保育所、幼稚園、学校などと連携し、子育てにまつわる講演会や親子イベントの開催などを行っています。

メンバーが生活や子育てをしている中で大切だと思うことを市民の皆さんと一緒に考えようと、講演会やイベントなどの企画運営を行っています。講演会のテーマは、「性」「いのち」「発達障がい」を柱としています。また、市内の子育てサークルと連携して、「おっぱい広場」を開催し、助産師による母子相談会を行っています。事業開催の時には託児室を設け、市が行う健診やイベントの際にも託児スタッフとして活動しています。ママたちの交流や子どもたちのふれあいの場として、お弁当を一緒に食べたり、さまざまなイベントも行ったりしています。

■主な対象者／どなたでも
■主な活動拠点・場所／志摩市内
■活動日時／不定期

■連絡先／shima_sodachiai@yahoo.co.jp
■代表／田中 吉輔さん

人形劇「たんぽぽ」【志摩市】

楽器演奏や読み聞かせ、紙芝居、クイズなど、子どもが笑顔いっぱいになる参加型のプログラムを提供しています。

■主な対象者／どなたでも
■主な活動拠点・場所／志摩市
■活動日時／不定期
■費用負担／なし

メンバーは志摩市内の40～50代の主婦が中心。年に20回程度、幼稚園、保育所、社協などの依頼を受け、出向いています。ピアノ、サックス、フルートなどで童謡やアニメの曲などなじみのある曲を演奏。子どもが生の演奏や楽器にふれる機会を提供しています。人形劇は、「大きなかぶ」など子どもたちにおなじみの童話から、オリジナルのお話などを上演。他にもクイズや手遊び、体操などを取り入れて子どもたちが飽きずに楽しめる構成が好評です。

■連絡先／0599-55-0739（田畑さん）
■代表／田畑 ちさ子さん

ひなたぼっこ【名張市・伊賀市】

赤ちゃんの抱っこの仕方から、食育、性教育まで。不安がつきものの妊娠や出産、子育てを楽しく愛おしくするマタニティからの子育てを応援します。

「赤ちゃんの抱っこの仕方で、その後の成長が変わります」という“抱っこマイスター”の森井さんと助産師の林さんが運営する「ひなたぼっこ」。ここでは、赤ちゃんのやわらか抱き方講座や抱っこ紐、おんぶ紐の相談、ベビーヨガマッサージ、さらに発育や育児、離乳食などの相談、性教育など、さまざまな内容をやさしくアドバイス。名張市や伊賀市を中心に、肩の力を抜いて子育てをするヒントを伝え、マタニティからの子育てを応援しています。子どもを持つ一人のママとしての目線で、子育ての悩みや不安を少しでも軽くするようなケアをめざしています。

■主な対象者／妊婦さん・1歳半くらいまでの赤ちゃんとママ
■主な活動拠点・場所／蔵持公民館（名張市）
■活動日時／毎月第3火曜日　13:00～15:00（講座内容により予約が必要な場合があります）
■費用負担／500円（講座内容によって変更することがあります）

■連絡先／[LINE]@hinatabokko
[Facebook]
http://www.facebook.com/hinatabokko.baby/
■代表／森井 美紀さん・林 みち子さん

子育てサークル「おひさまの会」【尾鷲市】

気軽に子ども連れで息抜きできる場所。ママたちが緩くつながるコミュニケーションを楽しめるサークル。

■主な対象者／どなたでも
■主な活動拠点・場所／尾鷲市福祉保健センター
■活動日時／毎週火曜日9：30～12：00
■費用負担／なし

尾鷲市福祉保健センター3階児童コーナーの部屋で毎週火曜日に開かれる子育てサークル「おひさまの会」。午前9時30分から12時ごろまで毎回、0歳から3歳程度の未就園児を連れた10組ほどの親子が思い思いに過ごしています。同会代表の矢口さんは、「とりたてて、何かをしようということではなく、みんなが気楽に過ごすことが目的です」といいます。ママたちは子どもたちを見守りながらリラックスした様子でおしゃべりを楽しんでいます。「地元のママもよそから嫁いできたママも一緒にお話できるゆるいところがいいですね。子育ての息抜きになります」とのこと。子育ての情報交換はもちろん、世間話など、肩のこらない時間を過ごしてリフレッシュしています。

■連絡先／0597-23-3871（尾鷲市福祉保健課）

みはまるしぇ【御浜町】

御浜町から紀伊半島をひとつにしたい！
世代関係なく地域の輪がどんどん広がっています。

子育て世代は子どもとお年寄りをつなぐ世代だと考えています。ママたちが社会とつながっていくために、好きなことや得意なことを生かせる場として「みはまるしぇ」を始めました。みはまるしぇは、手作りクラフトやフード、ヨガやマッサージ、ゲームコーナーなど、さまざまなお店が大集合する催しです。最近では子どもたちも出店やお手伝いをしたり、おじいちゃんも将棋を教えたりと、世代関係なく一緒に楽しんでいます。またオムツ交換・授乳スペースもあるので赤ちゃんが一緒でも安心。子どもにとっても大人にとっても学びの場であり、夢の実現の場です。ネットワークをつくる一員としてみんなが活躍中。たくさんの人に来ていただき、この先もずっと続けていきたいです。

■主な活動拠点・場所／寺谷総合公園
■活動日時／年3回

■連絡先／Facebook
http://m.facebook.com/mihamarusye/
■代表／永井 芳美さん

桑名市 「お互いさま」の気持ちで子育て応援！

桑名市は「すべては子どもの笑顔のために」が合言葉。子育て中の家庭だけでなく、地域や事業者などのさまざまな力を合わせた「全員参加の子ども・子育て支援」をめざしています。

ゆめはまちゃん

Point 1 中高生が赤ちゃんや幼児とふれあう『わくわく子育て体験』

桑名市では、中学生や高校生を対象に、次世代の親の育成を目的とした「わくわく子育て体験」を行っています。中学生では、妊婦体験や赤ちゃんとのふれあいを体験するとともに、ママから子育ての話を聞くなどして「命の尊さ」や「親子の絆」を学ぶきっかけとします。高校生では、保育所で幼児とふれあう異年齢交流を実施。1年間を通して高校生と園児が1対1で交流し、人とつながる力を養っています。

Point 2 子育ての喜びや悩みを共有する場『キッズサロン』

「子どもを遊ばせる場所がない」「お友だちがほしい」「子育ての情報がほしい」「子育ての悩みを相談したい」、そうした声に応える『キッズサロン』では、保育士がおもちゃを持って地域の公民館にでかけ、遊びの設定や交流を図るとともに、子育て情報を提供しています。また、地域の主任児童委員や民生委員、子育てボランティアも参加し、子育ての悩みの相談にも応じています。

Point 3 持っておトク! 「くわなスクスクカード」

市内在住で18歳までの子どもがいる方と妊娠中の方に交付しています。カードを掲示すると、協賛店舗のさまざまなサービスを受けることができます。市のホームページから申請書がダウンロードできます。

くわなスクスクカード　検索

TOPICS

くわな子育てガイドブック

妊娠から出産、赤ちゃん、青少年に至るまでの、子どもや子育てに関する情報を掲載したガイドブックです。インターネットで電子書籍として閲覧できるほか、ダウンロードもできます。

くわな子育てガイドブック　検索

桑名市　子ども・子育て応援センター
「ぽかぽか」「キラキラ」職員

http://www.city.kuwana.lg.jp/

市民目線の子育て情報を発信しています

KOSODATE-INTERVIEW

子ども・子育て市民情報部会
部長：榊原 邦子さん

私どもは、子育て家庭にきめ細かな情報を提供することを目的として活動をしています。毎年「くわな子育てガイドブック」を市民目線で作り、そこで網羅できない身近な子育て情報を「くわなっ子 あそばなあ」というチラシの中で発信しています。今後の活動の想いとしては、桑名市の子どもたちの笑顔のため、地域の子育て力アップのために、私たちが集めたさまざまな情報をみなさんに提供し、「子育ては家庭だけでするものではなく、地域や社会全体でするもの」という支援の輪を広げ、この地域で子育てできる喜びをママさんたちに感じてほしいと思っています。「桑名の子は桑名で育てたい」、そのように思っていただけるよう部員一同これからも活動していきます。

いなべ市 独自の取り組みで「ママは元気」「赤ちゃんすくすく」

いなべ市では、健康や病気に関する専門家、保健師が乳児（おおむね生後2か月～4か月）がいるすべての家庭を訪問しています。赤ちゃんの成長や健康はもちろんのこと、ママへの質問票で子育てのさまざまな不安もサポート。これらの事業がテレビでも紹介されるなど、取り組みが高く評価されています。

うめぼ～や

Point 1 ママの不安を解消! 「こんにちは赤ちゃん訪問事業」

子育ては、初めてでも二人目でも、不安がいっぱいで気づかないうちに「産後うつ状態」に陥っていることがあります。ママたちがそのような状態にならないよう、生後4か月までの乳児がいるすべての家庭を保健師が訪問しています。さまざまな不安や悩みを聞き、子育て支援や母子保健事業などの情報を伝えています。また、ママの健康相談、子どもの身体測定や健康状態のチェックも行い、家庭の状況や子どもの年齢に応じたアドバイスを行っています。

Point 2 「子育て応援団」が活躍しています!

地域で支えあう子育ての輪がさらに広がるよう、地域住民が自主的に参加する「子育て応援団」が活動の場を広げています。託児などで子育てをサポートするボランティアや民生委員、母子保健推進員が主なメンバーで、子育て中のママと、子育てが一段落された方、子育てに関心がある方などが交流できる貴重な場をつくっています。生後6か月の子どもに絵本の楽しさを伝える「ブックスタート」をはじめ、地域の公民館等で開催する「あそびの会」やおもちゃ作りなど、さまざまな活動を行っています。

Point 3 生きる力をつなげるチャイルドサポート

子どもの健やかな育ちのために、誕生から就学まで途切れなく支援する事業です。行政の縦割りの垣根を越えて、母子保健・保育・子育て支援・教育・障がい福祉の各部門が連携して支援する点が特徴。市内の全保育園が同じ基準で発達状況を確認したり、支援が必要と思われる子どもには保育園が個別の指導計画を作成するなど、さまざまな取り組みを行っています。

TOPICS

これからパパになる、または子育て真っ最中のパパへ

いなべ市で子育てをがんばる先輩パパの子育てのヒントをたくさん集約した「パパの子育てガイドブック」。子どもの成長に応じたパパの役割、仕事と子育てを両立させるためのヒント、先輩パパたちの経験を元にした子育てに役立つ事例などがまとめられています。

いなべ市役所　健康こども部
発達支援課
健康推進課
保育課／こどもぱれっと
児童福祉課

https://www.city.inabe.mie.jp

子どもたちの成長を見守り子育て家庭に寄り添う支援をしています KOSODATE-INTERVIEW

NPO法人「こどもぱれっと」
理事長：荒木 佳子さん

主な事業は、0才～18才の児童と子育て家庭を対象に、児童センターやファミリーサポートセンターの運営、放課後児童クラブや障がい児の子育て支援などです。現場で聞く声を生かしながら、「子どもたちの成長を見守り、子育て家庭に寄り添った支援をしたい」という思いを持って取り組んでいます。「わくわくランド」というコーナーでは、専門職の先生や職員が子育て中のママの悩みを聞き、アドバイスや気持ちに寄り添う丁寧な対応を心がけています。子育て中の職員が多いので、それぞれの年齢層の子どもたちの様子が把握できているのも、私たちの特徴だと思います。子育てに困った時や子どもと楽しく過ごしたい時に、「行こう」と思ってもらえる場所にしていきたいと思っています。

木曽岬町 地域のつながりが子育てにもつながっています！

もともと地域のつながりが強い木曽岬町。「子育て 8つの指針」を新たに作成し、保護者や地域、教職員の関わりを大切にした「安心感・信頼感」「聞くこと」「あいさつ・礼儀」など、保護者と地域と学校が連携して、子育てしやすいまちにつなげています。

トマッピー

Point 1 五感を刺激して成長を助けています！

保健センター内にある「こども相談・子育て支援センター」では、年齢にかかわらず「木曽岬町に住むすべての子どものすべての相談」に応じています。保健師・保育士が常駐し、内容に応じて、臨床心理士やその他の専門家へとつないでくれます。毎週月～金曜日行われている「子育てサロン」では、季節ごとのイベント、五感を使って仲間づくりや集団生活のルールを身につけていく教室「音楽療法の日」などを開催しています。ほかにも、安心して遊ぶことができる「ファーストトイ」をすべての赤ちゃんにプレゼント。「木のおもちゃ」で赤ちゃんに楽しさと刺激を与え、発達を促したいという願いが込められています。

Point 2 むし歯予防に力を入れています！

「3歳児の1人平均虫歯本数を1本に減らそう！」が目標。1歳4カ月から2歳4カ月の子どもには「フッ素」を4回塗布しています し、2歳8カ月から3歳4カ月までの子どもは、協力医療機関でフッ素塗布を受けられます。また、9～10カ月の子どもには、むし歯予防の指導をする「歯っぴい指導室」を保健センターで行うなど、むし歯予防にも積極的に取り組んでいます。
むし歯を防ぐことでより健康的な食生活を送る基盤づくりを進めています。

Point 3 子どもも一緒に楽しく活動！「元気なまちづくり応援団」

福祉健康課が主催する成人保健分野（自殺予防対策、心の健康づくり事業）の一環として結成された「住民主体」のグループ。「地元を元気にしたい」という有志が集まり、むかしの遊びの楽しさを伝えたり、地元の果物や野菜を使って料理をつくったり、オリジナルの体操をしたり、大人と子どもが一緒になって楽しめるさまざまな活動を行っています。

TOPICS

行事・健康カレンダー

「行事・健康カレンダー」を全戸に配布しています。「歯と口の健康について」「熱中症について」など、毎月その時期に沿ったテーマを紹介。育児相談をはじめとする母子保健事業の日程も掲載し、子育てをサポートしています。

木曽岬町　福祉保健課　保健師
藤原 志乃さん（左）、上野 明美さん（右）

http://www.town.kisosaki.lg.jp

KOSODATE-INTERVIEW

「むかしのあそび」の楽しさを子どもたちに伝えています

むかしむかしあそびの里グループ
リーダー：杉野 保さん

私どもの活動としましては、小学校の休み時間を利用して、児童と一緒に、こま回しやあやとり、お手玉、かるたなど「むかしながらの遊び」を楽しんでいます。今は外で遊んでいる子がほとんどいないので、「もっと外で遊んでいる元気な子どもたちの姿を見たい」と思ったことが、このグループを作ったきっかけです。子どもたちにとっては初めての遊びが多いですが、ある子が「こま回しを家でお父さんと練習した」と話してくれて、上手になっていた時はとてもうれしかったですね。こかれらも、親はもちろん、おじいちゃんやおばあちゃんとも一緒に楽しめる遊びの魅力を伝えていきたいなと思っています。みんなでまちを元気にして、子どもを育てやすい町をつくっていきたいです。

東員町 マイナス1歳から15歳まで 保健師さんが寄りそうまち

近年多くの子育て世代が移り住むようになった東員町は、「『安全安心で子育てができるまち』～いのちが生まれること いのちを育むこと その尊さとその素晴らしさを求めて～」をスローガンに、子育て支援を進めています。

と一馬くん

Point 1 保健師さんは、ママたちのよき相談相手

妊娠がわかったところからサポートをスタート。マタニティ教室として、前・後期に分けてパートナーや家族も対象とした講座などを行っています。また、各自治会単位で母子健康推進員が妊娠中からサポートしています。さらに、6名の保健師が出産世帯全戸を訪問。子育てについてわからないことや悩みなどを聞くことはもちろん、身近な話し相手になっています。そしてママ同士の仲間づくりも応援。さまざまな子育てサークルを応援する社会福祉協議会、子育て支援センターなどの運営を行う学校教育課と連携して子育てをサポートしています。

Point 2 ふれあいセンターは子育て支援の拠点

ふれあいセンターで毎週月・水曜日の10時～15時まで子育て応援ルームを開催。未就園児とその保護者を対象に親子で楽しめるスペースを開放しています。また、3組以上の子育て親子で構成されているサークルの活動場所としても提供しています。ここでは、町内で子育て支援活動に取り組むボランティアやNPOグループ相互の情報交換や協働による事業を実施するなど、子育て支援ネットワークづくりも行っています。

Point 3 登録すると安心!「とういんファミリーサポートセンター」

保育所・習い事などへの送迎、休日出勤や通院時など小さい子ども同伴の外出が困難な時の預かりを行っています。

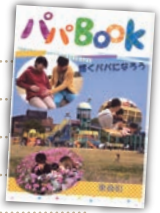
【利用料金】

時間	平日	土・日・祝
7時～19時	700円／1時間	800円／1時間
上記以外	800円／1時間	900円／1時間

TEL:0594-76-2123(とういんファミリーサポートセンター)

TOPICS

パパBook



妊娠期から子どもが6歳になるまでのママや子どもへの関わり方について掲載しているパパ向けの冊子です。妊娠期は、ママの体の変化とともにパパにできることを中心に掲載。また、産まれてからは、おむつの替え方やお風呂の入り方、ミルクのつくり方などをイラストを使って詳しく説明しています。

東員町　健康づくり課
保健師のみなさん

http://www.town.toin.lg.jp/

いろいろな「広場」で地域と交流しています

KOSODATE-INTERVIEW

東員町子育て支援センター
センター長:南川 ひろみさん

「なかよし広場」では、ベビーヨガやコンサート、クリスマス会など楽しい行事を開催しています。年に4回ほど行う土曜日開放では、仕事が休みのパパやおじいちゃん、おばあちゃんが子どもと一緒の時間を過ごし、その間ママは、買い物をしたり、ちょっと一息ついたりと、リフレッシュする時間になればと思っています。また、出前保育「おでかけ広場」では、おもちゃを持って各地の集会所へ出かけ、地域の方々と交流しながら楽しく遊んでいます。最近の相談内容としては、出産後の不安やうつ、離乳食の与え方などの悩みが多いですが、子どもの発達に合わせた相談に努めています。一人で頑張りすぎず、困ったことがあったら子育て支援センターへぜひ来てください。

四日市市 「子どもと子育てにやさしいまち四日市」をめざして

安心して子どもを産み育てることができる環境を整えるため、妊娠から出産、乳幼児、青少年に至るまで、途切れのない施策を展開し、さまざまな角度から子育て支援を進めています。

こにゅうどうくん

Point 1 父親の子育てマイスター養成講座で子育てパパ増加中!

子育てに関心のある男性に向けて「父親の子育てマイスター養成講座」を開催。乳幼児とのふれあい遊び講座や、先輩マイスターとの交流、妊婦体験や料理講座など、子育てに役立つ情報を得て、子育てへの知識と意識を高めることができます。この講座への参加を通して、パパ同士の交流も盛んになり、パパの子育ても活発になっています。

子育て支援センターで月1回程度開催している「よかパパ相談」では、父親の子育てマイスター養成講座修了生が各施設を訪問し、父親目線による子育て相談のほか、父親による絵本の読み聞かせやパパ同士の交流を行っており、子育て支援センターを訪れるパパも増えています。

Point 2 3人目からの保育料無料 ニーズにあわせた保育の充実

3人目以降のお子さん（1人目の年齢に上限があります）が保育園・幼稚園に通う場合、保育料を無料にしています。

また、多様化する保護者の就労形態に応えるため、延長保育や一時保育、休日保育などの特別保育の充実により、子育てしやすい環境整備に取り組んでいます。未就園児と保護者の方を対象にした「あそぼう会」や「あそび会」も各保育園・幼稚園で定期的に開催するなど、楽しく子育てができるよう支援しています。

あそび会の様子

Point 3 四日市市へいらっしゃい! 子育て世帯を応援

市外から転入する子育て世帯が、一戸建中古住宅を購入する場合、最大30万円のリフォーム代金を補助。また、市内の特定の住宅団地において一戸建中古住宅を賃貸する場合に最大月3万円の家賃補助（最長3年度）を行っています。さらに、親世帯と近居の場合にはそれぞれ補助上限額をアップするなど、四日市市での子育てを応援しています。また、県外からの転入者には最大100万円のリフォーム補助制度もあります。

父親の子育てマイスターに関すること：こども未来部　こども未来課
保育園・幼稚園に関すること：こども未来部　保育幼稚園課
住み替え支援事業に関すること：都市整備部　都市計画課

四日市市ホームページ「子育てエンジョイ」
http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu77812.html

子育てのさまざまな相談にお応えします KOSODATE-INTERVIEW

四日市市こども未来課
子育てコンシェルジュ：古川 久美子さん

子育てコンシェルジュは、子育て中のみなさんのニーズに応じたいろいろな情報を提供する案内役です。例えば、「四日市へ転勤するので、妊娠中の奥さんが安心して子育てできるよう、子育て支援センターに近い場所で家を探したい」というお父さんからのご相談には、市内の子育て支援センターの様子や詳しい場所、交通手段などをお知らせしました。お父さんの勤務にも便利で、子育て支援センターにも近いところでお家が見つかればいいなと思います。これからも、多くの方から気軽に声をかけてもらい、「四日市では、いろいろな情報がわかりやすく、安心して子育てができるね」と思ってもらえたらうれしいです。

菰野町

子育て家庭を見守る 子育てキーパーソンがいるまち

御在所岳の麓、豊かな自然に恵まれた菰野町。ここでは、小学校区単位の子育てサロンを開催しています。ママやパパはもちろん、先輩ママ・パパたちも協力した独自の取り組みを行っています。

「子育てキーパーソン」って?

Point 1

各小学校区で開催される子育てサロンは、「子育てキーパーソン」として自身も子育て世代の方々が企画、運営を行っています。子育てキーパーソンを養成する講座は毎年開講されていて、ママたちの仲間づくりにはじまり、調理実習や子育てを楽しくするためのコツなどを学びます。利用者からキーパーソンになる人も多く、世代を越えたメンバーといろいろなノウハウを共有しながら、地域にあったサロンを通して子育ての輪が広がっています。

「けやき」は親子同士が友達になれる場所

Point 2

保健福祉センター「けやき」内にある「子育て支援センター」は、広い室内スペースにおもちゃや遊具などがあり、親子が自由に遊べるところです。毎日、たくさんの親子連れが訪れているので、親も子どもも友達をつくることができる場所です。

スタッフは保育士が常駐し、随時「育児相談」(料金・予約ともに不要)を受け付けており、内容によって、保健師、栄養士、助産師にもつないでくれる仕組みになっています。

子育て情報紙「こもっ子mama」

Point 3

子育て中のママたちが手づくりで子育て情報紙「こもっ子mama」を、年4回発行しています。親子で遊べるスポットや旬のレシピなど身近な話題が満載です。パパのエッセイや、くすっと笑えて子どもたちにも伝えたい菰野弁のコーナーが特に人気です。

TOPICS

子育て応援ハンドブック

かわいいイラスト付きで読みやすく、子育てをするママにはうれしい内容になっています。ファミリーサポートセンターのしくみもわかりやすく図解で紹介。子育てに安心感を与えてくれる一冊です。

菰野町　子ども家庭課
小林 千春さん(左)、城田 圭子さん(中央)、内田 彩花さん(右)、

役場本庁の1階にあり、大きなぬいぐるみが目印です。事務職のほかに保健師・保育士・相談員などの職員が在籍しています。

http://www2.town.komono.mie.jp

安心して子育てができる環境づくりを行っています

KOSODATE-INTERVIEW

菰野町社会福祉協議会
千種 節子さん

子育てサロンの運営に欠かせないのが「子育てキーパーソン」で、子育て真っ最中のママがスタッフとなって活躍しています。同じ子育て中だから共感できることが多く、「また行ってみよう」と思える場になっていると思います。また、さまざまな子育て支援事業に積極的に参加してもらっているボランティアさんのおかげで、町民を交えたネットワークがしっかりと築けてきていると思います。菰野町には3人目、4人目を出産される方もたくさんいます。それはママが孤立せずに、いざとなったら地域で子育てを助けてもらえるという安心感があるからこそ、次の一歩に踏み出せていると思っています。そんなふうに菰野町で子育てしたいと思う人が増えるような活動をしていきたいです。

朝日町 小さいまちならでは！ すべての子どもに目が届いています

アーミン

三重県で一番面積が小さい朝日町ですが、大きな団地ができたことで急激に人口が増えました。新しく引っ越してきた親子同士の交流や、子育ての悩みを気軽に相談できる場を設けるなど、人と人とのつながりを大切に育んでいます。

Point 1 町民が密に集まる「さわやか村」

保健福祉センター「さわやか村」は、乳幼児から高齢者まで町民の健康をしっかり管理しています。月に一度は育児相談を行っているほか、乳幼児を対象にした育児教室も定期的に開催しています。なかでも、「ひよこ教室」は、ベビークラス（0～8カ月未満）とキッズクラス（9カ月～1歳6カ月未満）に分かれていて、それぞれの月齢に合わせた保育士による子育てのアドバイスを受けることができてママたちに喜ばれています。育児教室はママ同士が相談しあえる場であり、ママたちの子育て不安を軽減しています。

Point 2 子育ての係は役場を入ったらすぐ!

町役場の玄関を入るとすぐにある子育て健康課では、保健師・看護師がいつも見守ってくれています。子ども連れの親子には必ず声をかけて、悩みや不安を話しやすい雰囲気づくりに努めています。また、言葉の発達による相談には言語聴覚士が、子どもの発達に関する相談には、臨床心理士が応えてくれる体制も整っています。

Point 3 幼保一体で充実環境「あさひ園」

平成21年にリニューアルオープンした「あさひ園」は、幼保一体型。保護者からは「広くてきれい」と好評を得ていて、園庭は芝生で、のびのびと遊ぶことができます。子育て支援センターが併設し、入園前から遊びにくることができる「お試し保育」もあります。保育士が園外へ出向き、親子で楽しめる遊びを紹介しているほか、育児相談を行う「出前保育」も行っています。

TOPICS 朝日町の子育て情報がいっぱい「にこにこ通信」

毎月発行されている「にこにこ通信」は、その月の保育サービスやイベントなどを紹介。ママたちが知りたい情報がコンパクトにまとめられています。知っているようで知らない童謡の歌詞を毎月紹介する「今月の歌」のコーナーは大好評です。

朝日町　子育て健康課　保健師
須藤 華菜さん（左）、寺島 加奈さん（右）

http://www2.town.asahi.mie.jp

きめ細やかで身近な支援を心がけています KOSODATE-INTERVIEW

朝日町子育て健康課
保健師：寺島 加奈さん、須藤 華菜さん

寺島：朝日町は県内で一番小さな町ですが、小さいからこそきめ細やかな支援を強みとしています。出産前から産後も私たちが見守っています。そのあと赤ちゃん訪問に行ったりすることで、あさひ園に入るまでの長い時間関わっていく「顔つなぎ」ができていると思います。まずは役場に来て私たちの顔を覚えていただけるといいかなと思っています。

須藤：私はがん検診を担当していますが、子どもの健診や教室にも顔を出しています。また、がん検診の時に託児を行っていて、その時にも母子保健のスタッフがいるので、その場で育児相談や、ママ自身の健康のことなども相談も受けています。今後は、より身近な存在として子育て支援に関わっていけたらいいなと思っています。

川越町　出生率が高いまち ママたちのつながりが、子育てのエネルギー！

宅地開発等が進んでいることから、町外からの転入が増えており、子育て世代（30～40代）の割合がとても多く、出生率も県内で1、2を争うほど高いまちです。そのため、特にママたちのつながりを生み出す活動が盛んです。

Point 1 ママさんグループ「ハピ★ママ」が元気に活動中!

女性を対象にした事業（イベント）を企画・運営するママさんグループ「ハピ★ママ」。現在は20名ほどのママたちが中心となって活動しています。ママ同士のつながりを深めることに力を入れており、年々活動の場を広げています。年に2回開催する「happy share party！」では、カフェコーナーなどのイベントブースを企画し、さまざまな方々にご協力いただきながら運営しています。また、「ハピ★ママ講座」は、関心の高いテーマを取り上げ、受講者とメンバーが気軽に話し合えるよう小さな規模で開いています。

Point 2 ママの不安、子育ての悩み…まとめて解消!!

「つばめ児童館」と「ひばり保育園」の2カ所で地域子育て支援センターを開館しています。子育ての不安や悩み相談、育児に関するいろいろな情報の提供を行っています。開館中（月～金、9時～15時）は、いつでも自由に利用できますよ。

【川越町子育て支援センター（つばめ児童館内）】
場所　大字豊田一色235-1　　TEL　059-366-0800

【ひばり保育園　子育て支援センター　スマイリー】
場所　大字豊田85-1　　TEL　059-365-3625

Point 3 プレママたちの交流の場!「マタニティの会」

妊娠中の過ごし方をはじめ、先輩ママの話を聞いたり、赤ちゃんにふれたり、パパの妊婦体験など、プレママ・パパたちが知りたい情報がわかる講座です。妊娠中の食事のこと、おなかの赤ちゃんとのコミュニケーションの取り方等も紹介。「妊婦の大変さがわかり、気遣う大切さがわかった」「妊婦体験は、とても重たくて、サポートしないといけないと思った」など、参加したプレパパからも好評を得ています。

川越町　福祉課
小林 由美子さん、水谷 晋也さん
http://www.town.kawagoe.mie.jp

KOSODATE-INTERVIEW ママの心の変化を見逃さないように心がけています

川越町子育て支援センター
センター長：水谷 悦子さん

当センターは、未就園児の親子の居場所として、親子で楽しんだり学んだり、時には地域の人とふれあったり、人と人がつながり支えあう、そんな温かい空間づくりを目指しています。行事一つにしても、こちら側が提供するだけではなく一緒につくり上げていく企画もママたちにお願いしています。私たちが大事にしているのは、日頃からコミュニケーションを取っていく中で、顔と顔を見ながら話を聞き、ママの心の変化を見逃さないようにすることです。そして、ママたちの目線に立ち、一緒に悩んで、考えるということも大切にしています。小さな町だからこそできる子育て支援、人と人とがつながり頼り頼られる、お互いさまの関係づくりができれば最高だと思います。

鈴鹿市 「鈴鹿で育つ、鈴鹿の未来」がテーマです！

国際的なレーシングコースを有する国際観光都市であり、ものづくりの盛んな中核都市です。「鈴鹿で育つ、鈴鹿の未来～未来を担う子どもたちの健やかな育ちをめざして～」をテーマに、子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じることができるような環境づくりが進んでいます。

ベルディ

Point 1 子育てにゆとりを与える『子育て応援館はぐはぐ』

平成28年4月に『子育て応援館はぐはぐ』がオープン。1階は、子育てサークルや子育て支援団体などの交流の場として使えるプレイルーム、2階はひとり親の子どもたちの学習支援や子どもと親の居場所づくりを行うスペースなどがあります。専門スタッフやボランティアも常駐し、0歳から18歳の子どもたちの育ちをサポートする拠点となっています。「パパのための料理教室」や「リトミック教室」や「英語で遊ぼう」など講座の内容も多彩で、親の精神的な負担を軽くし、心にゆとりを持てるような取り組みを行っています。

Point 2 おでかけ情報や育児ノウハウなどが満載の『きら鈴』

子育て応援サイト『きら鈴（きらりん）』には、市内で開催されるイベントなどのお出かけ情報やパパに役立つ育児ノウハウ、公園や子連れで遊べる施設の紹介など、いろいろな情報を掲載しています。また、市内で開催する友活・恋活・婚活のイベント情報なども掲載し、出会いから結婚、子育てまで、一貫してサポートをしています。「お父さん出番ですよ」のコーナーでは、ゴックン期からモグモグ期の「離乳食レシピ」や沐浴の手順が紹介されており、パパにも役立つ情報も満載です。

Point 3 子育て応援ブックがリニューアル!

子育ての各種窓口の案内をはじめ、子ども連れでのお出かけ情報、さらにさまざまな子育て情報を掲載した鈴鹿市の子育て応援ブックが『すずっこナビ』としてリニューアルしました。子育て情報とマップが連動していて、より見やすくなっています。親子で遊べる施設の情報も充実しているので、一緒にお出かけする時に重宝する一冊になっています。

インターネットからもご覧いただけます。
http://www.city.suzuka.lg.jp

鈴鹿市　保健福祉部　児童保育課
野島 慎人さん

http://www.city.suzuka.lg.jp
※このページの情報は、平成28年3月20日現在のものです

親子が孤立化しない地域をめざしています

KOSODATE-INTERVIEW

鈴鹿市子育て支援センター「りんりん」
所長：磯部 美雪さん

「りんりん」は、親子が出会いを通じて交流し合える場をめざした独立型支援センターです。育児不安を抱えた保護者のために安らぎと安心の場を提供し、気軽に立ち寄れる施設にすることを目標に活動しています。食事ができる多目的ホール、授乳室も兼ねた和室などがあり、手遊びや絵本の読み聞かせなどは毎日行っています。毎月1回開催する「お父さんも遊ぼう」という講座では、普段ふれあう機会が少ないパパと子どもが一緒に遊ぶだけでなく、パパ同士の仲間づくりの場にもなっています。また、引っ越してきた子育て中の方が孤立化しないように、いろいろな行事にお誘いしたりもしています。これからも、来館された方が笑顔で帰っていただけるように心がけていきたいと思います。

亀山市

「かめやまげんきっ子」を地域で育てています！

「子どもの笑顔が輝く 子育て交流のまち かめやま」を基本理念に、子どもの目線に立った子育て支援策を進めています。運動や食などによる体づくりの重要性を伝え、心身ともに健康な「かめやまげんきっ子」の育成をめざしています。

かめみちゃん

「かめやまげんきっ子」って？

Point 1

運動能力が最も伸びるといわれる乳幼児期の親を対象に、運動や食、生活リズムによる体づくりの重要性を伝え、特にパパの参加も積極的に呼びかけることで、心身ともに健康な「かめやまげんきっ子」を育成する環境づくりを進めています。毎年5月に開催する「かめやまげんきっ子フェスティバル」では、保育士がリズムあそびや絵本の読み聞かせを行うほか、運動あそび講座（要予約）や軽食コーナーなどもあり、毎回たくさんの親子連れが集まります。

まち全体で子育てをサポートする体制ができています

Point 2

0歳から18歳までの子どもの育ちや発達、子育てやしつけについて専門スタッフが相談・アドバイスを行っています。スタッフには、指導主事（教員）・臨床心理士・保育士・家庭相談員・女性相談員・心理相談員などを配置し、相談窓口を「子ども総合センター子ども支援室」に一元化しています。子ども相談や女性相談に迅速、かつ的確に対応し、各関係機関（保育所・幼稚園・学校等）とのコーディネートも積極的に行います。また、必要に応じて、児童相談所などの専門機関と連携して相談を行っています。

子育て支援センター「あいあいっこ」「あすれっこ」に集まれ！

Point 3

市に2つある子育て支援センターでは、お友だちと一緒に運動や工作を楽しむ講座や誕生日会など毎月楽しいイベントを開催。9月恒例のミニ運動会は特に人気。地域の方と一緒に子育てを応援する「地域のひろば」も開催し、子育てサークルも紹介しています。また、「あいあいっこ」では、毎月第2土曜日は、人との関わりが苦手な子どもとその親にゆったりと過ごす時間を提供する「すくすくくらぶ」も開催しています。

TOPICS

かめやまっ子応援情報誌
かめやま子育てガイドブック

妊娠から出産、乳幼児、子どもや子育てに関する情報や支援の内容を掲載したガイドブックを発行しています。インターネットからもダウンロードすることもできますよ。

かめやま子育てガイドブック　検索

亀山市　健康福祉部
子ども総合センター　子ども家庭室
藤岡 麗子さん

https://www.city.kameyama.mie.jp

ママが自由に活動できる環境をつくっています

KOSODATE-INTERVIEW

子育て支援「かめのこ」
代表：伊藤 栄子さん

私どもは、親子交流の場「かめのこサロン」を開いているほか、「かめのこスマイル」という集団託児事業を行っていまして、子育てに関する講座やママ同士のサークル活動の時に、そのお子さんをお預かりしています。徐々に集団託児をしていることが広まってきて、利用される方が増え、ママたちが自由に行動できる機会が増えたと思います。亀山市の良いところは、市と子育て支援団体が連絡を取りながら、一人の子ども、一つの家庭に対して共同して関わっているところだと思います。今後も「ママの子育てを応援する」ことを基本にしながら、いろいろな活動に出やすい環境をつくったり、子育てのストレスから解放される場を提供したり、地域全体で子育てを応援していきたいと思っています。

津市 子どもの輝きが未来につながるまち・津

「子どもの力を信じ、主体性を重んじた子育ち・子育てが地域の明るい将来につながる」という理念のもと、「子どもへの視点」、「保護者への視点」、「社会・地域への視点」という3つの視点を重視し、子育て家庭にやさしいまちをめざしています。

シロモチくん

Point 1 子育て仲間の輪を広げる場がたくさん!

保育所など市内18カ所で、0歳から就学前（主に未就園児）の子どもを対象にした「子育て支援センター」を開設しています。子育て中の親子が気軽に集まって、友達づくりや情報交換、子育ての相談ができる場所です。また、親子で楽しめる手あそびや小さい子どもでもできる体操など、楽しい時間を過ごせるようにいろいろな遊びやイベントも行っています。英会話教室を行っている団体もあるなど、それぞれ独自の取り組みを行っています。

津市 検索

津市トップページ→子育て・教育→子育て支援→子育て支援事業

Point 2 げいのうわんぱーくで雨の日も元気に遊ぼう!

平成27年に芸濃庁舎南側芝生広場にオープンした「げいのう わんぱーく」は、雨天でも楽しめるボルダリングやネットアスレチック、読書スペースのほか、授乳室など赤ちゃんにやさしい設備も完備。天気の良い日は、広大な芝生広場で思いっきり遊べます。駐車場もたっぷりあるので、気軽に立ち寄ることができます。また、祝日を除く、火・水・金曜日には芸濃子育て支援センター「ぷちぷち」を開設し、子育ての相談なども行っています。

場所：芸濃町椋本6146-2

TEL：059-265-5537

Point 3 妊娠期から育児期の悩みに丁寧に対応

市内10カ所にある保健センターでは、母子健康手帳交付時に、妊娠、出産、育児期の相談に応じています。「子どもが健やかに育ち、安心して子育てができる人とのつながり」をめざし、子どもの発育確認、発達相談、親子交流などができる「のびのび身体計測」「すくすく健康相談」を毎月開催しています。また、赤ちゃんの産まれた家庭には、保健師・助産師・母子保健推進員が訪問し、母親の心配事や不安などに丁寧に耳を傾け、対応しています。

TOPICS

元気っ津（げんきっつ）も安心

津市の子育てハンドブック

赤ちゃん訪問や離乳食教室などの、妊娠中から3歳ごろまでの子どもへのサービスをはじめ、救急医療や手当・医療費の助成などの子育てに関する情報がわかりやすく紹介されています。図書館や芝生のある公園などいろいろな施設の紹介もあり、子育て中の母親にとってうれしい一冊になっています。

津市　子育て推進課　子育て推進担当のみなさん

http://www.info.city.tsu.mie.jp/

親子がゆっくり過ごせる場所をめざしています

KOSODATE-INTERVIEW

げいのうわんぱーく
館長：市川 稔さん

当施設は、子ども同士が遊びながら親同士も交流したいという声に応えてつくられました。屋外には広い芝生広場が、屋内の交流プラザには、子ども向け図書を備えた「読書スペース」や自由に落書きができるコーナーがあり、ネットアスレチックやボルダリングなども楽しめる「プレイルーム」があります。週末や祝日には、お父さんも一緒に楽しく遊んでもらっています。これからも親子の交流の場として、ゆっくり過ごせる場として活用してもらいながら、子育ての不安もなくしていきたいと思います。3人以上の保育士たちが常駐していて、相談にも応じていますが、今後はより幅広い支援をめざしています。

松阪市 子育ての楽しさ実感「子育て一番」宣言

さまざまな家庭の子育てへのニーズに応え、子育ての楽しさを実感できる環境をつくるため、「子育て一番」を宣言。延長保育や病児・病後児保育、放課後児童クラブなど、きめ細かで迅速な対応をめざして、妊娠・出産・子育ての途切れない支援をする「松阪版ネウボラ」に取り組んでいます。

ちゃちゃも

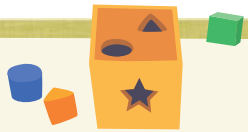
Point 1 産後の不安を解消！産後ケアが充実

体調不良など出産後の支援が必要にも関わらず、頼る人がいないママと赤ちゃんに市が指定する産科医院や助産院に宿泊したり、通ったりしながら、ママの健康管理、乳房ケア、授乳方法や沐浴などの指導、赤ちゃんの発育チェックなどの産後ケアを行っています。また、出産後の生活に不安のある方には、妊娠中から保健師が相談にのり、家族を支えます。

Point 2 子育てサークルの活動を市が応援！

民間主導の子育て支援サークルが9団体あり、活発に活動しています。親子で一緒にヨガ、手遊び、ベビーマッサージなどを楽しむ活動、絵本の読み聞かせなどを行う団体をはじめ、子どもと一緒に参加できるママたちのための英会話サークル、双子・三つ子など多胎児のママたちのためのサークルもあります。市では、このようなサークルへ講師を派遣したり、団体同士の交流会を開催したりするなどの支援をしています。参加しているママたちからは、「情報共有や悩みが相談できる」「気の合う仲間ができ、新しい子育てサークルを立ち上げることができた」などといった声が寄せられています。

Point 3 きめ細かな子育て支援をめざして



市内に12カ所ある子育て支援センターでは、パパ・ママに「子育てって楽しい」と思ってもらえるよう、いろいろな支援を行っています。子育てに関する悩みや不安などについて電話や面談による相談に応じるほか、子育てや母子保健事業の情報提供や子育て講演会・講座、地域へ出向いての出張ひろばなどを開催しています。ほかにも、中学3年生（満15歳になった最初の3月末）までの市内在住の子どもを対象に医療費の助成も行っています。

松阪市　こども未来課
白上 陽亮さん（左）、荒木 章次さん（右）
http://www.city.matsusaka.mie.jp

子どもを主体とした支援をしています

KOSODATE-INTERVIEW

（特）松阪子どもNPOセンター
理事長：塩谷（えんや） 明美さん

当センターでは、ママサポートや、ファミリーサポートセンター事業などさまざまな子育ち・子育て支援を行っています。今の子どもたちは、人と関わったり、自然の中で遊んだり、文化的な体験をする機会が少ないので、昨年は、松坂城跡近くで忍者ごっこをして遊びました。子どもたちは忍者になりきり、大人も「子ども心」を思い起こして遊びました。こんなふうに思いっきり遊びきることで、達成感や「自分は自分でいいんだ」と思える瞬間を積み上げていける気がします。また、子どもたちが気持ちを表現するには「受け止める」環境も必要だと考えています。家庭だけで子育てをしようと思わず、地域ぐるみで支援するネットワークを広げていきたいです。

多気町　豊かな自然を生かした子育てが魅力

平成28年に「自然派保育園」や「認定子ども園」が新たに誕生。豊かな自然を生かした環境と地域が一体となって、子育てをする体制が魅力的なまちです。

Point 1 自然の中でのびのび育つ保育園

平成28年4月に民間運営による「自然派保育園」がオープンします。自然派保育とは、四季折々の植物や自然と触れ合うことで好奇心や自立性を養う保育のこと。園の隣にある里山でどろんこになって遊んだり、森に住んでいる小鳥や虫などの生物を観察したりする「園外保育」を積極的に行うほか、保育園の森を近隣住民とともに整備していくなど、自然を通じた地域との交流も予定しています。保育料は町内のほかの保育園と同じ料金です。

【多気の杜ゆたか園】
場所　クリスタルの森付近

Point 2 独自の幼児教育を行う認定こども園が誕生

町内初の「認定こども園」が平成28年4月に運営を開始します。多気町ではこれまで就学前の子どもは町内の保育園へ通うか、幼児教育を希望する場合は、町外の幼稚園などへ通うしか選択肢がありませんでした。しかし町内でも幼児教育を受けられるように、津田保育園を認定こども園へ移行。子育て支援センターの部屋と機能を設け、入園家庭に限らず、すべての家庭を対象に子育ての不安などの相談を受け入れます。また、同園の特色として、茶道教室を通じて和の心を学ぶ時間なども定期的に設けます。

【津田認定こども園】
場所　多気町井内林138-1
TEL　0598-38-2195

Point 3 子育ての悩みに答えるワンストップ窓口「たき児童館」

「たき児童館」は、保健・福祉・教育が連携し、子どもが生まれてから大人になるまで、子育てに関する途切れのない支援を行う「子育ての総合支援室」です。多目的室、運動場を開放し、子どもに遊びや学びを提供しているほか、親の悩みに寄り添う「相談サポートセンター」、孤立しがちなママたちが交流したり、子どもが一緒に遊んだりできる「子育て支援センターのびのび」、共働き家庭でも子どもたちが昼間安全に過ごせる居場所としての「放課後児童クラブ」、ファミリーサポートセンター事業などさまざまな機能を持っている施設です。それぞれの事業で、みえ発達障害支援システムアドバイザーや保健師、保育士、教諭など、「子どものプロ」が対応してくれるので、子育て中のママには力強い味方です。

【たき児童館】　場所　多気町四疋田594　　TEL　0598-38-7750

多気町　子育て総合支援室
林 典子さん(左)、室長：奥村 尚美さん(右)

http://www.town.taki.mie.jp

経験豊富な元園長ならではの支援を行っています

KOSODATE-INTERVIEW

多気町子育て総合支援室
保育士：中西 利子さん

私たちは長年保育園で働いてきた経験を生かして子育て支援をしていきたいと思っています。子どもたちの成長や子育て支援のことは把握していますので、入園に対する不安や悩みなどを親身になって聞いてアドバイスしたり、保育園にも橋渡しをしています。最近は核家族化も進み、おじいちゃんやおばあちゃんに子育てを助けてもらう機会も少なくなってきたので、昔ながらの歌や子育ての方法も広めていきたいと思っています。ここではママ同士が仲良くなったり、悩みも気軽に話したり、子どもたちも遊びやすい雰囲気づくりを大事にしています。これからも、「子育ては楽しい」ということをママたちに感じてもらえるような支援をしていきたいと思っています。

明和町

子育て中の親たちに やさしく手をさしのべるまち

めい姫

「一人ひとりの子どもが健やかに安心して育つことができる明和町」をめざし、子育て支援センターを増やしたり、保育所と幼稚園の良いところを生かした「認定こども園」をつくったり、子育て情報や交流の場を提供したりするなど、さまざまな角度から子育て支援を行う体制を整えています。

Point 1 親子同士の交流の場「子育て支援センター」

子育てをしていく中で、さまざまな悩みや不安を気軽に相談できる場、親子が遊ぶ場、親子同士の交流・情報交換ができ、良い刺激を受けられる場として、町内5カ所に子育て支援センターを設置しています。それぞれのセンターでは、保育士が常駐し子育てに関する悩みや疑問などに応じる「電話相談」や「面接相談」のほか、子どもの発達や子育てのポイントなどのアドバイスも行っています。また、気軽な雰囲気のなか、親子や親同士の交流を進めるなど、子育ての目線に立ったさまざまなサービスで好評を得ています。

Point 2 すべての子どもを受け入れる「こども園」

明和町では、保育所と幼稚園の双方の役割を果たし、それぞれの良いところを生かした幼保連携型認定こども園「みょうじょうこども園」を開園しました。保護者の就労の有無に関わらず入園できるので、すべての子どもが同じ幼児教育・保育を受けられます。現在(H28.2)167人が通っています。

場所　多気郡明和町明星1060
TEL　0596-53-0500

Point 3 「小1の壁」はありません!

小学生を対象に、放課後や夏休みなどを安全・安心に過ごすことができる居場所として、町内の小学校6校すべての敷地内に放課後児童クラブを整備しています。指導員が遊びや生活の指導など、児童の安全で健やかな育ちの場を提供。子どもが保育所などから小学校へ入学しても安心して子どもを預けられる環境が整っています。

TOPICS

災害に強く住みやすい明和町!

明和町には飛鳥時代から約660年間斎王が暮らした斎宮があったことからも昔から災害が起こりにくい安定した地域といわれています。平成27年には斎宮を取りまく文化・歴史のストーリーが文化庁から「日本遺産」に認定されるなど、防災対策だけでなく、文化や歴史、自然に恵まれた住みやすいまちづくりを進めています。

明和町教育委員会事務局　こども課　こども支援係
中瀬 基司さん(左)、竹　歩さん(中央)、森田 景子さん(右)

http://www.town.meiwa.mie.jp/

KOSODATE-INTERVIEW

子どもも親も安心できる環境づくりをしています

みょうじょうこども園副園長兼
子育て支援センター「こあら」センター長
石田 仁美さん

本園では、保育所部・幼稚園部の子どもたちが同じ部屋で教育・保育を受けています。保護者の方が働くことになった時、部をスムーズに移行することができるので、安心して生活を続けることができます。子育て支援センター「こあら」を併設しているので、未就園児の親や祖父母の方々が顔見知りになったり、子どもたち同士も仲良くなったりします。また、常時2人以上のベテラン保育士が、子どもの様子を見ながら育児の相談にも応えています。子育て支援センターが併設されていることの良さは、入園前から少しずつ園に慣れていただけるところだと思います。気兼ねなく来園していただけるよう、「話しやすく明るい対応」と「連携がとれた育児相談」を心がけています。

大台町　清流がはぐくむ自然を生かした子育てができるまち

「子どもたちが健やかに生まれ育つまち」「誰もが安心して喜びと生きがいを持って子育てができるまち」の実現をめざし、豊かな自然を生かした子育て体験の場をつくるなど、子どもがのびのびと育つ環境づくりを行っています。

宮坊・チャミー

Point 1 暮らしを助ける助成が充実!

「すこやかベビー出産祝い金」として、大台町に1年以上住所登録がある人が出産した時に、新生児1人につき10万円の祝い金を支給することで、次代の社会を担う子どもの出産を祝福し、健やかな成長を支援しています。また、ひとり親家庭に対しては「就学就職支度金」を支給する制度もあり、子育て家庭の暮らしを助けています。小学校入学支度金は児童1人につき5千円、義務教育終了者就学就職支度金は1万円となっています。

Point 2 「リフレッシュ大台学園」でいろいろな体験を提供!

平成14年、さまざまな体験教室を開催する「リフレッシュ大台学園」を設置しました。お菓子作りをしたり、森の中を散歩したり、こども抹茶教室を開くなど、大台町の豊かな自然や文化と触れ合い、体験を通して学ぶ機会を提供しています。遊びやものづくりの体験を通して、親子の交流を深め、子どもたちの自主性や社会性を育てる絶好の場所になっています。親も子どもと一緒になって楽しめる講座が多いのも人気のポイントです。

【リフレッシュ大台学園】
場所　大台町栗生720
TEL　0598-83-3777

Point 3 成長に合わせた教室を開催

赤ちゃんの成長段階に合わせた離乳食教室を開催しています。生後5カ月～8カ月の保護者を対象にした「もぐもぐ教室」、生後9カ月～1歳3カ月の保護者を対象にした「かみかみ教室」、1歳4カ月～2歳3カ月を対象にした「ぱくぱく教室」など、それぞれ栄養士のお話と調理実習、試食などを行っています。子どもの成長にあわせた調理の工夫や食べる機能の発達などを学べる貴重な機会となっています。

実施場所　大台町栗生1010（健康ふれあい会館）
TEL　0598-82-3783

Point 4 保育料が断然安く、さらに、給食費は無料です!

保育料は住民税課税額に応じ計算しますが、3歳未満児の最高額は25,000円で、3歳以上児の最高額は19,400円となっています。また、同一世帯から2人以上のお子さんが入園している場合は、2人目半額で3人目は無料です。このほか、世帯の収入等により異なりますが、平成28年度から多子世帯やひとり親家庭世帯に対して、保育料が軽減される場合があります。

大台町　町民福祉課
TEL　0598-82-3783
http://www.odaitown.jp

また子育てがしたいと思える支援をめざしています　KOSODATE-INTERVIEW

子育てサークル「さくらんぼ」
代表：伊藤 ひで子さん

大台町には4つの子育てサークルがあり、それぞれが季節の行事などを考えながら運営をしていて、合同でお祭りや防災講座なども開催しています。その中で「さくらんぼ」は、誕生日カレーランチ会を開催しています。カレーはサークルを卒業したママがつくってくれます。そして、先輩ママたちと一緒に子育ての話をしながら楽しい時間を過ごしています。私は、子育てをしている時にたくさんのママたちや支援センターの方など、地域の方々に助けていただいたので、私も恩返しをしたいという想いでサークルを運営しています。ママたちに「また子どもを産んで育てたい」「もう一人子どもがほしい」と思っていただきたいですね。そして子育てを楽しみ、みんながイキイキと過ごせるような活動をしていきたいと思っています。

伊勢市

家庭と地域と社会が手をつないで子どもを育むまちづくり

子育ての出発点は家庭であり、子育ては親が担う重要な役割であるという認識のもと、地域全体で子どもの成長を見守り、子育てを助け合い、親と子どもが地域の人々とふれあいながら、子どもが安心して学び遊ぶことができる社会をめざします。

©2008 伊勢市

Point 1 働くママの強い味方！「病児保育」

「子どもが急に発熱！でも仕事を休めない…」。そんなときにも安心の病児保育を行っています。入院の必要はないけれど、通園・通学ができず、保護者が家庭で看護できない場合、看護師や保育士のもと、お子さんを一時的にお預かりしています。

「病児保育エンゼル」
場所：伊勢市河崎1-12-12（神田小児科横）
時間：月曜～金曜　8:30～17:30
TEL：0596-20-6512（病児保育エンゼル）
対象：0歳から小学6年生まで

Point 2 生後3カ月からOKの「一時保育」

保護者の急病や、週2～3日働きに出る時、買い物や美容院に行きたい時など、保育所に入所していない子どもを一時的に預かるサービスを市内4カ所の施設で行っています。伊勢市在住の生後3か月～小学校就学前の子どもが対象で、幼稚園児でも利用できるので、困ったときに頼りになります（小俣子育て支援センターは満1歳以上、修道こども園は空き状況に応じての保育となります）。

【実施場所】
- 保育所きらら館（常磐2-4-40）　TEL 0596-21-4555
- 小俣子育て支援センター(小俣町元町536)　TEL 0596-22-7871
- しごうこども園（一宇田町891-1）　TEL 0596-25-6160
- 修道こども園（楠部町48-40）　TEL 0596-28-1565

※利用方法・利用料金については、各施設へお問い合わせください。

Point 3 子育ての悩みに応えます

子育て支援センター「きらら館」では、子育てに関する悩み事や困り事などについて利用者支援専門員が必要な情報を提供したり、適切な支援機関を紹介しています。日ごろの子育ての悩みや疑問について、幅広く相談に応じます。子どもを遊ばせながら、気軽に話ができます。電話での相談も受け付けています。

場所　伊勢市常磐2-4-40
時間　火～日曜日（祝日の翌日・年末年始を除く）
　　9:00～16:00
TEL　0596-22-5592

TOPICS 子育ての情報を1冊に集約！「伊勢市の子育てハンドブック」

子どもの健康診査や子育て教室、各種手当や医療費助成制度のほか、子どもを預かってほしいときに利用できるサービス、親子でお出かけできる場所などの情報を一冊に集約し、わかりやすくまとめた子育て家庭には必携の一冊です。

【配布場所】市役所こども課、中央保健センター、各総合支所、各子育て支援センターなど

伊勢市の子育てハンドブック　検索

伊勢市　健康福祉部　こども課
http://www.city.ise.mie.jp

さまざまな子育ての形に寄りそっています

KOSODATE-INTERVIEW

子育て支援センター「きらら館」
館長：中山 茂子さん

私たちは、就学前の子どもとご家族が交流できる場をつくり、子育て相談などを行っています。日ごろは絵本の読み聞かせや手遊び、体操などをしたり、保健師や栄養士を招いて講座などを開いたりしています。また、普段なかなか体を動かす機会がないママたちのリフレッシュも兼ねて、親子エアロビクスやふれあい体操なども行っています。ほかにも、パパの子育て参加を応援する「パパママいっしょに」の講座では、絵本作家の浦中こういちさんを招いたり、歌つき絵本の読み聞かせを行っています。私は、「いろんな親や子どもがいるように、いろんな子育てがあっていい」と考えています。これからもたくさんの笑顔があふれることを願い、寄りそって支えていきたいと思っています。

鳥羽市 元気で明るい「とばっ子」を育てるために

人口が減少傾向にあるため、定住促進として魅力あるまちづくりを進めています。「行ってみたい」「住んでみたい」と人の心を動かすPRを展開するとともに、「安心して子育てできるまち」づくりに地域をあげて取り組んでいます。

とば子育て応援
キャラクター「ジュジュ」

「とばっ子カード」や「子育て応援券」で子育てを強力サポート

Point 1

「とばっ子カード」は、18歳以下の子どもを育てている世帯を対象に配布していて、市内の協賛事業所で飲食の割引などのサービスを受けられるものです。また、子どもが誕生した世帯（1歳未満の転入も同様）には、市内の協力店で使える3万円分の「とばっ子子育て応援券」をプレゼント。子育て用品（紙おむつなど）の購入をサポートします。さらに、6歳未満の子どもを対象にベビーシートやチャイルドシートの購入には1万円の助成券も交付しています。

Point 2 保育所・幼稚園が2人目から無料 中学生まで医療費0（ゼロ）

保育所・幼稚園に同一世帯から2人以上在籍する場合、2人目から無料になります。各保育所では園庭開放を行い、子どもが安心して遊べる場所として提供するとともに、親子同士の交流の場としても活用しています。また、中学3年生までの子どもを対象に医療費の全額を助成するなど、保健・福祉面での支援も拡充しています。さらに、高校生の通学費や下宿代などを一部助成する制度もあり、子育て世帯の支援に力を入れています。

Point 3 市内で住宅を新築すると100万円!

さまざまな子育て支援策とあわせて、定住促進への取り組みとして、市内で新築する場合には100万円、中古住宅を取得した場合には50万円を交付。さらに、市有地の購入の補助など、特に40歳以下の人の定住促進を進めています。

TOPICS

とばっ子子育てガイドブック

妊娠から子育てまでのさまざまな情報や子育てサークルなどを紹介しています。子どもが遊べる施設や公園も紹介されており、子育てに役立つ内容になっています。

「きらりと笑顔が輝くまち」鳥羽市では子育て家庭を応援しています

鳥羽市　健康福祉課　子育て支援室
河原 光寿さん（左）、山下 祐子さん（右）
TEL 0599-25-1184
https://www.city.toba.mie.jp/

みんなで子育てを応援しています

KOSODATE-INTERVIEW

子育て応援0・1・2・3サークル
代表：山本 道子さん

0歳からのお子さんと保護者の方が楽しめるような、季節にあった遊びを毎週計画し、みんなでわいわいと楽しく過ごしています。こうした遊びの中に防災活動を取り入れています。例えば、卵の殻を使って足元の危険を感じる体験や、紙芝居などを使って、楽しみながら防災意識を高めるよう内容を工夫しています。また、ママたちの子育ての悩みを聞かせてもらうとか、仲間をつくる場やストレスを発散してもらえる場になりたいなと考えています。最近では、同じ施設内のデイサービスを利用されるお年寄りとも交流しています。鳥羽市はさまざまな支援や支援センターなど、施設も充実していますし、遊びに行けるところもたくさん増えてきて、本当に子育てがしやすくなったなと思っています。

志摩市

地域のふれあいを大切にした きめ細やかな支援が魅力！

「地域のふれあいが子どもを元気に、親も安心できるまちづくり」という理念のもと、地元の人たちのつながりを大切にし、地域の協力を得て青少年の健全育成に取り組んでいます。

あおサ～

Point 1 自然や人とのつながりを大切にする子育て

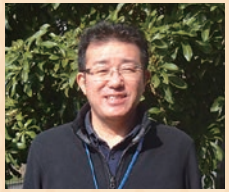
志摩市には、きれいな海や公園、芸術家が訪れる岬やそれらを見渡せる展望台があり、新鮮な魚もたくさんとれます。そういった文化を自然体験などに取り入れ、楽しみながら興味を持つ人材を育成しています。また、人と人とのつながりが強いのも特徴で、地域の大人と子どもたちの多くが顔見知りとなり、日常の子どもたちに対する地域の大人の目が増え、子どもたちがどこにいても安全で安心できるような活動を行っています。また、中学3年生までの子どもを対象に医療費を助成し（所得制限あり）、医療面での支援も行っています。

Point 2 未来ある子どもたちの健全育成に取り組んでいます

家庭・地域・学校が一体となり、心豊かでたくましい子どもを社会全体で育もうと、学校や公民館などに安全で安心して活動できる子どもたちの活動拠点を確保しています。磯部地区内の各小学校区で開催されている「ドンカラ子ども教室」では、地域の大人が指導員やボランティアとなり、子どもたちの放課後や週末の時間を利用して、エコ工作体験や農作業体験などの文化的な活動や、ドッジボール大会などのスポーツ体験活動を行っています。

Point 3 子どもを「預けたい人」「預かりたい人」が会員登録

「志摩市ファミリー・サポート・センター」は、保育士や看護師の資格をもつ人、4人の子どものママなど専門性や経験もさまざまな提供会員が在籍し、生後6カ月から小学校6年生までの子どもの預かりや、保育施設・習い事までの送迎などを行っています。多くの共働きの夫婦やシングルファザー・マザーが利用し、提供会員は子どもが喜ぶおかずやパン、おやつ作りなどの調理実習、AEDの使い方研修などを受けてサポート力を磨いています。またボランティアグループが年4回発行する子育て情報誌の配布、子育てイベントやフリーマーケットの開催など、幅広く子育てを支援しています。



志摩市　健康福祉部　こども家庭課
谷口 陽一さん

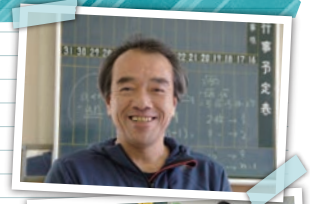
https://www.city.shima.mie.jp

子どもの健全育成を支援しています

KOSODATE-INTERVIEW

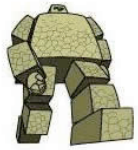
志摩市放課後児童クラブ
主任支援員：中川 明さん

志摩市は自然がたくさんあるところですので、大自然の中で子どもたちが安心して育ってもらえるような支援をしています。通っている子どもが増えてきているので、それだけ児童クラブのニーズが高まってきたと感じています。部屋は仕切りを取り払ってオープンにすることで学年に関係なく、みんなが一緒に遊んだり、助け合ったりしています。運動やスポーツを中心に子どもの健全育成をしたいとも考えていますので、サッカーやドッジボールなどをしながら汗を流して、楽しく1日を過ごしています。保護者の方もよりよい状況で就労していただけるよう、今後もこの地域に根づいた活動をしていきたいと思っています。また、小学校から中学校へ進学する際の不安も取りのぞくような取り組みもしていけたらと考えています。



玉城町 安心して子どもを産み育てられるまち たまき

子どもの健やかな育ちと子育てを支える場が充実しています。子育て中の親子が交流する子育て支援センターや、保育所・放課後児童クラブが各学校区にあるなど、安心して子育てができる体制が整っています。



城之介（じょうのすけ）

Point 1 子育てのワンストップ窓口「子育て総合支援室」

子育て総合支援室では、保健師・保育士・みえ発達障がい支援システムアドバイザー・子育て相談員が常駐し、妊娠期の母子手帳の発行から、誕生後の「ウェルカムコール」など、保育所・小学校・中学校などと連携しながら、18歳までできめ細かい継続的な支援を行っています。また、気軽にパパの気持ちや子どもの成長を記せるように工夫した町独自の「たまパパノート」を母子手帳と同時に配布。さらに、ママとパパが力を合わせて子育てを楽しめるように「パパママ教室」も開催しています。

Point 2 県下初の「ノーバディーズ・パーフェクト（NP）」を実施

自立した子育てと親同士の仲間づくりを目的とした「ノーバディーズ・パーフェクト（NP）」というプログラムを県下で初めて実施、これまで160人以上のママが受講しています。これは、自らの子育てを振り返り、ママたちが学び合い、仲間とのきずなづくりをファシリテーターがリードしながら進めるもので、週1回、6回を1プログラム（託児付き）として、年間3回開催。修了後も仲間で励まし合い、支えあって子育てを楽しんでいるママたちの姿が多く見られるようになりました。町では今後もこの「NP」を通して安心して子育てができるように支援していきます。

Point 3 恵まれた自然環境を活かした保育所

町内には豊かな自然環境に恵まれた4つの保育所があります。田丸城跡や田園地帯など、地域の自然環境のなかで、それぞれの特色を活かした保育を行っています。また、待機児童はゼロで、仕事を持つ保護者が子どもを安心して預けられる環境を整えています。一部の保育所では一時保育も行っていますので、急な場合やリフレッシュなどの利用が増えています。

TOPICS

情報誌「たまきっこ」

町内で子育てをしているママたちが情報誌「たまきっこ」を発行しています。ママたちの実体験によるさまざまな特集コーナーや子育て情報など、ママ同士のネットワークの強さや情報網を生かした記事が満載です。

玉城町　生活福祉課　子育て総合支援室のみなさん

https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/

本を通して親子がつながる場をつくっています KOSODATE-INTERVIEW

はなはなおはなし会
堀川 美子さん

「本を通して親子のつながりをつくりたい」「子育ての喜びや悩みなど、ママ同士が話をできる場をつくりたい」という思いを持って活動しています。赤ちゃんがまだ言葉を発しない時、どうやって関わっていいかわからないというママが多いのですが、そんな時に短い言葉、心地よいリズムとして耳に入ってくる絵本を読むことで子どもとの関係がうまくいくと思っています。子どもたちに読み聞かせをしていると、子どもたちの目はキラキラ輝くので、こちらが喜びをもらったりしています。子どもは絵本を読んでもらう時、ママの顔も見ながら愛情を感じると思うので、どの本を読まなきゃいけないということではなくて、たくさんの本を読んでもらいたいと思っています。

度会町

地域のボランティアが子育てをサポートするまち

「幸せな笑顔かがやく　家庭と地域のぬくもりあるまち」の実現のために、町公認の子育てボランティアを養成したり、子育て支援センターの充実を図るなど、子育て家庭のサポート体制を強化しています。

ティーナ

Point 1 「子育て家庭が幸せに暮らせるまち」をめざしています

保健センターでは、保健師による赤ちゃん訪問や生後2・7カ月健康診査など、お子さんの成長と発達をきめ細やかに見守り、妊娠から子育てまで保護者の方へのサポートを行っています。妊娠期のプレママ教室、生後3〜7カ月までのママと子どものタッチケア教室、離乳食教室なども実施し、親子ともに健やかに生活できるようバックアップ。また、生涯自分の歯で食べられるよう、ママと子どもの歯の健康にも力を入れており、妊娠中のママに1回、子どもには1歳半からフッ素塗布を開始し、その後も継続的に行える「ぴかぴかカード」を配布しています。

Point 2 メニュー充実の子育て支援センター

子育て支援センターでは、多目的室、創作活動室を開放して親子で自由に遊べる場を提供しています。遊びのサークル活動では、「ひよこグループ」（1歳児）と「うさぎグループ」（2歳児）にわかれ、親子でリズム遊びや季節の行事を行ったり、子育て講演会を開催したりするなど、子育て中のママたちをサポートしています。また毎月、親子で自由に遊べる交流の広場「わたぼうし」を町内2カ所で巡回で開催しています。

【度会町子育て支援センター】
場所　度会町棚橋1453−2
TEL　0596-63-0070

Point 3 ママのためのリフレッシュ講座

子育て中のママが自分のための時間を持つことでリフレッシュし、託児を利用することでママ自身の視野を広げてもらおうと、子育て支援センターで、年5回、ママのための「リフレッシュ講座」を開催しています。内容は牛乳パックを使った机づくり、ヨガ、アレンジメントフラワー、クリスマス菓子づくりなど、多種多様。子育て中のママたちの気分転換となる機会をつくり、他のママたちと交流をすることが、子育てを楽しむことにつながっています。

TOPICS

子ども医療費助成制度が充実

いずれかの医療保険に加入している15歳年度末（中学3年生）までの子どもに対して、入院・外来にかかった保険診察の自己負担額の助成を行っています（※所得制限あり）。

度会町　保健センター
TEL　0596-62-1112
http://www.town.watarai.lg.jp

KOSODATE-INTERVIEW

地域が一つになって子どもたちを見守っています

度会町子育て支援センター
センター長：安井 三智子さん

当センターでは、気軽な雰囲気の中で子育てなどに関するテーマを設けて語り合うパパママワーク「ほっと・一息」というワークショップを開催しています。ママたちからは「話しにくいことも話せた」「悩んでいるのは私だけじゃないとわかって安心した」という声もあり、今後も続けていきたいと思っています。保健センターや支援センターの行事には、子育てボランティアの方々も積極的に協力していただいています。地域の方々が「子育てを支援したい」と自ら手を挙げてくださることはうれしいですし、すごくありがたいと思っています。みんなで手を携えて、地域の子どもたちの健やかな成長を見守り、安心して子育てができる場所づくりをしていきたいと思っています。

大紀町 子どもは町の宝！ 子育て家庭にやさしい制度が充実！

エンゼル手当をはじめ子どもの成長に合わせた子育て支援補助金が子育て家庭を応援します。大変な子育ての相談ができる子育て支援センターや午後7時まで開所する放課後児童クラブを設置するなど、子育て家庭にやさしいまちづくりをめざしてしています。

たいちゃん・き-ちゃん

Point 1 子どもは町の宝！「子育て支援補助金」

●エンゼル手当
子ども誕生時に第1・2子は10万円、第3子は30万円、第4子は50万円、第5子にはなんと100万円を！そのほかにも、中学校を卒業するまでは毎年誕生日に2万円、中学校卒業時に5万円を交付しています。

●エンゼル2補助金
保育料（給食費相当分）や小・中学校の給食費の補助をしています。

●エンゼル3補助金
高校生等の通学・下宿費等の補助をしています。

●エンゼル4補助金
ひとり親家庭の放課後児童クラブ利用料の補助をしています。

●ベアーズ助成金
子どもの医療費は小学校6年生までは無料、中学1年生から高校3年生までは自己負担1,000円で受診できます。

ほかにもインフルエンザの予防接種費用の補助など
子育て家庭の負担を軽くする支援が盛りだくさんです。

Point 2 出前保育やってます！

子育て支援センターは、「すくすく」「きらり」の2カ所あり、子育ての不安や育児のさまざまな悩みが相談できます。また、保育園や公民館などに職員が出向いて、保育園を利用していない地域の子どもを対象に交流の場を提供する「出前保育」も実施。平日は毎日OKの「指導員による何でも相談」や、各施設2カ月に1回行われる「保健師・栄養士相談」も行っており、育児不安の解消に努めています。

【すくすく】
場所　大紀町大内山861－1
TEL　0598-72-3020

【きらり】
場所　大紀町滝原1888-5
TEL　0598-86-3330

Point 3 すべての放課後児童クラブが午後7時まで開所!

放課後児童クラブは「七保」「大宮」「柏崎」「錦」「大内山」の5カ所にあり、働くパパ・ママを応援しようと平成27年度から開所時間を延長しました。指導員のもと、児童の下校時から午後7時まで、子どもの自主性と好奇心を尊重しながら遊びや読書などをして毎日過ごしています。また、春・夏・冬休みの期間は午前7時30分から午後7時まで開所しています。
料金：一人3,000円（月額）※8月のみ8,000円
年間を通して、いつでも受け入れを行っています。

大紀町　健康福祉課
玉井 紀秀さん

http://www.town.taiki.mie.jp/

「安心して子育てができるまち」をめざしています

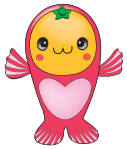
KOSODATE-INTERVIEW

大紀町健康福祉課
玉井 紀秀さん

当町は「人の命は何よりも大事　子どもは町の宝　お年寄りは町の誇り」を基本として、さまざまな取り組みを行っています。なかでも子育て支援については「子育てしやすい日本一のまち」と自負するほど手厚くなっています。さらに、中学校を卒業するまでは毎年誕生日に2万円、卒業時には5万円を交付するなど、子育て家庭を経済的にサポートしています。また、5カ所の放課後児童クラブは、午後7時まで開館を延長し、夏休みなどは朝7時30分から受け入れるなど、親が仕事と育児を両立できるよう支援しています。今後も町の宝である子どもを安心して育てられる環境の整備を進めていきます。

南伊勢町 地域みんなでバックアップ！自然とふれあい心豊かに暮らせるまち

「保護者がゆとりをもって子育てができること」「子どもが幸せに育つこと」「地域のみんなが子育てをバックアップする意識を持つこと」をめざし、子育て支援の体制を整えています。



たいみー

地域全体で子育てを支援するネットワーク

Point 1

地域のみんなで子育てをサポートしようと、子育て支援センターを中心に、子育て支援に関わる団体や人材を結ぶネットワークづくりに取り組んでいます。子育て支援センターでは、親子ふれあい広場を開催したり、各家庭を訪問し子育てに関する冊子をお届けしています。また、親子が絵本を通してゆっくりふれあうきっかけをつくるため、絵本の読み聞かせや配布も行っています。

働きながらの子育てをバックアップ！

Point 2

町内には7カ所の保育所があり、そのうち4カ所では、0歳児（9カ月以上）、1歳児を受け入れる低年齢児保育サービスを実施しています。さらに、全園で通常の保育時間（8時～16時）を延長し、19時までの長時間保育サービスを行っています。

また、「放課後児童クラブ」を設置し、室内では本を読んだり、宿題をしたり、天気の良い日はお散歩に出かけたりするなど、子どもたちは自由にのびのびと過ごしています。

充実のサポートが心強い！子育て支援センター

Point 3

児童相談所、臨床心理士、医療機関などと連携しながら、18歳未満の子どもについての相談に応じています。また、子育て中の親子が交流できるサロンを開放したり、子育てのヒントになる食育・健康の講座や絵本の読み聞かせ会など、親子がリフレッシュできるイベントを開催しています。ほかにも、安心して出産できるように先輩ママと交流する「マタニティー支援」や各地区の公民館などに出向いて遊び場を提供する「出前広場」も行うなど、地域で子育てをバックアップする体制をつくっています。

【南伊勢町子育て支援センター】
場所　南伊勢町船越1837-1
TEL　0596-66-0015

南伊勢町　福祉課
TEL　0599-66-1114

http://www.town.minamiise.mie.jp

地域ぐるみで働くお母さんを応援しています

KOSODATE-INTERVIEW

NPO法人 みなみいせ市民活動ネット
放課後児童クラブ「キッズみかん」
リーダー：石本 珠美さん

私どもの「キッズみかん」では、安全安心を基本にして子どもたちが楽しい時間を過ごしてもらえるように見守っております。その中で一番大切にしていることは、子どもたちが自主性・主体性をもって常に一人ひとりが主役になれる場をつくることです。日頃は宿題をしたり、おやつを食べたり、自由に遊んで過ごしています。年に数回、地域のお年寄りの方と交流をしていて、歌を歌ったり、昔の遊びをしたりして、お年寄りの方にも喜んでいただいています。町外へ出て働いている親御さんも多いので、安心して働いてもらえるように学校から学童まで子どもたちをお迎えに行ったり、日頃の様子も伝えています。これからも地域ぐるみで働くお母さんたちを応援していきたいと思います。

伊賀市

初心者ママも安心！元気な「いがっ子」が育つための手厚い支援

「すべての子どもが健やかに、誇りをもって成長することができるまち」をめざす伊賀市は、子育て支援センターを中心に、ママ同士の交流、相談などが気軽にできる仕組みがあり、情報発信にも力を入れています。

いが☆グリオ

Point 1 子育て支援センターが子育てをサポート

伊賀市子育て包括支援センターは、中心市街地にあるハイトピア伊賀4階にあり、プレイルームを伊賀市在住の0歳から就学前の乳幼児とその保護者に開放していて、親子が一緒に体を動かしたり、季節の行事を行ったりしています。ハイトピア伊賀4階には、保健センター、こども発達支援センター、ファミリー・サポート・センターもあり、妊娠から子育て相談、子どもの発達相談など、子どもに関する悩み事に対し、保健師・保育士・社会福祉士などの専門職員が相談に対応しています。
市内にはほかにも8カ所の子育て支援センターがあり、いろいろな事業が行われています。

Point 2 育児応援サービスガイド「ママフレ」

ウェブサイト「ママフレ」は、妊娠から出産・子育てに関する行政サービス情報を、「届出」「あずける」「相談する」などのカテゴリーにわけ、さがしやすくわかりやすく紹介しています。忙しい子育ての合間でも、知りたい情報が簡単に素早く検索できるようになっています。

ママフレ 検索

Point 3 第3子以降の保育料は無料!

18歳未満の兄姉が2人以上いて、保育所・保育園・幼稚園に入園しているお子さんが上から数えて3番目以降の場合、保育料を無料としています。なお、同時に入所している2番目のお子さんの保育料は1/2です。
また、市内に住む中学校を卒業するまでのお子さんの入院・通院費を全額助成しており、子育て世代の経済的な負担を軽減し支えています。

子育て包括支援センター TEL 0595-22-9665
保健センター TEL 0595-22-9653
こども発達支援センター TEL 0595-22-9627
ファミリー・サポート・センター TEL 0595-26-7830

http://www.city.iga.lg.jp

地域がひとつになってイキイキ活動しています

KOSODATE-INTERVIEW

丸柱地域まちづくり協議会
女性部部長：東山 さおりさん

この地域は三世代家族が多く、地域性が豊かなところです。そんな地域の方たちと一緒に、世代間交流を中心に「伊賀焼の里プロジェクト」として田植え、かかしづくり、稲刈りをしたり、クリスマス会、伊賀焼の茶器を使った新年のお茶会などを行っています。また、夏休みなどの長期休業中は小学生から高校生までが縦割りに班をつくって、下級生の勉強を見たりもしています。年齢に関係なく絆をつくり、仲間同士で悩みごとが相談できるので、子どもたちに好評です。私たちが一番大事にしているのは「子どもたちが本来持っている力を最高に引き出せる環境を提供したい」という想いです。過剰に支援するのではなく、それぞれに持っている力を生かすような取り組みをしていきたいと思っています。

名張市

妊娠から出産、子育てまで 地域で支える“名張版ネウボラ”

なばりのナッキー

名張市では地域ごとに設置している「まちの保健室」の看護師や社会福祉士などを「チャイルドパートナー」と名付け、ママたちの不安や悩みを「気軽に」相談できる仕組みをつくり、地域住民とさまざまな機関がつながって妊娠から出産、子育てまで切れ目ないケアを行っています。

「名張版ネウボラ」

「ネウボラ」とは、フィンランド語で「助言の場」という意味で、すべての家庭にかかりつけの保健師がいて妊娠や出産、子育てなどの相談に応じるフィンランドの支援拠点の制度です。
「名張版ネウボラ」は、「まちの保健室」を拠点として、チャイルドパートナーと民生委員・児童委員が核となった地域づくり活動、こども支援センターかがやき、マイ保育ステーションなどの施設、そして、専門職員である母子保健コーディネーター等が連携して産後のケアを重視しながら子育て家庭を支援するさまざまな仕組みの総称です。これにより、人と人、人と地域、そして人と仕組みをつなぎながら、妊娠前から出産、育児の期間までをつなぐ切れ目のない支援を実現するものです。

『3つの“つなぐ”』 ～地域をつなぐ～ しくみをつなぐ～ 時をつなぐ～

● まちの保健室 ●

「まちの保健室」とは、市内全15地域に開設している名張市独自の施設です。子どもから高齢者まで誰でもが気軽に立ち寄れて、子育て、福祉、健康づくりなどジャンルを気にせず気軽に話せる身近なワンストップ相談窓口をめざしています。

地域が支える子育て広場

地域では、市民センターなどの施設を利用しながら、地域で子どもを見守る活動のひとつとして、親子が気軽に遊べる「地域の広場」が実施されています。広場は、民生委員・児童委員のほか多数のボランティアの協力によって支えられています。また、保育所(園)、幼稚園においても「なかよし広場」が行われています。

安心育児おっぱい教室

出産直後のお母さんは、子どもと一緒に気軽に立ち寄れる場所が少なく、また、多くのお母さんが母乳の悩みを抱えることもわかってきました。こども支援センターかがやきで、出産直後の母子のために、助産師による「安心育児おっぱい教室」を開催しています。このことにより、こども支援センターは、母子の居場所としても活用され、たくさんの母子が訪れています。

KOSODATE-INTERVIEW

名張市民生委員・主任児童委員
草部 豊美さん

「こんにちは赤ちゃん訪問」など 地域で子どもたちを 見守る活動をしています

主任児童委員としては、赤ちゃんが生まれたばかりの家庭に伺い、いろんなお話をしながら、ママから話を聞くという活動をしています。通常は保健師さんなどが行う「赤ちゃんとママのケア」を名張では私たちが行い、「ご近所の世話焼きおばちゃんが来たよ」ということで、ママたちに「この地域はこんな支援があるよ」とか「みんなを頼っても大丈夫だよ」ということを一生懸命伝えています。それに対して、「資格もない人に子どものことを相談できるの？」という不安もあるかもしれませんが、研修も受けていますし、専門家のフォローもありますので、「地域が子どもたちを見守っている」ということを伝えていきたいと思っています。これからも、地域みんなで育てていく形をつくるために頑張っていきます。

名張市　福祉子ども部　健康・子育て支援室
TEL　0595-63-6970

http://www.city.nabari.lg.jp

尾鷲市

「おせっかい」でお接待 地域で子育ての伝統を受け継いで

古くから漁業と林業で賑わったまちには、今も古き良き近所のコミュニティーが残っています。昔から受け継がれてきた地域の深いつながりを生かした「子育てしたい、しやすいまちづくり」をめざしています。

Point 1 “おせっかい”こそ尾鷲の魅力。子育てを見守る「おせっかい隊」

「尾鷲子育てまちづくり座談会」を開催し、尾鷲の魅力である「おせっかい」を生かした、地域で子どもを見守る活動に取り組んでいます。その一環として、現在動きはじめているのが「おせっかい隊」という考え方です。市が行う放課後子ども教室「いきいき尾鷲っ子」では、「キッズ☆パークwithおせっかい隊」として、子育てを終えた地域の方々が子育て中の親子に郷土料理を教えたり、昔あそびを一緒にしたりなどの子育て支援を行っています。

Point 2 図書館が子育てをお手伝い!

市立図書館では、乳幼児とその保護者を対象とした「おはなしだっこ」、幼児を対象とした「おはなしの時間」、小学生を対象とした「おはなしの広場」をはじめ、毎月第2土曜には小学1～3年生を対象に「子ども読書会」を開催し、感想文の書き方なども教えています。さらに、父親の子育て参画を推進するきっかけづくりとなるお父さんのための読み聞かせや講演会なども積極的に開催するなど、子育ての交流の場としても図書館を活用しています。

Point 3 妊娠期からのケアと子育ての仲間づくりを後押し!

妊娠期から父親も対象に子育てのプレ体験ができる教室を開催するなど、出産前からの仲間づくりを進めています。3～5カ月児のママ同士が交流する「すくすく教室」や4～9カ月児のママのための離乳食教室などもあり、子どもの成長に合わせたさまざまな教室があるのが特徴です。また、乳児のロタウイルスのほか、水ぼうそうやおたふくかぜなどの予防接種が高校生まで無料でき、第3子以降の子どもには紙おむつの助成も行っています。

尾鷲市　福祉保健課
健康長寿推進係　TEL　0597-23-3871
高齢者・児童係　TEL　0597-23-8201
http://www.city.owase.lg.jp

子どもたちの声があふれるまちづくりをしています

KOSODATE-INTERVIEW

NPO法人「天満浦百人会」
理事長：松井 まつみさん

私たちが子どもを育てた頃は、どこの家庭からも本を読む声とピアノの音が聞こえてきました。ところが今は全く聞こえなくなってしまいました。やはり子どもたちの元気な笑顔が尾鷲を活性化させると思い、市が26年度から始めた「尾鷲子育てまちづくり座談会」に私たちも参加するようになりました。子育てしやすいまちについてみんなで考えるなかで、「おせっかい隊」が提案されました。百人会の活動としては、夏休みにセミ採りなど昔のあそびを楽しむ「ぼくの夏休み」という三世代交流事業などを行っています。子どもは「まちの希望」ですから、子どもたちから元気をもらう地域、子どもたちの声があふれるまちづくりをみんなでしていきたいと思っています。

紀北町 結婚から妊娠・出産・子育てまで身近なところでサポート

子どもが産みやすい環境づくりを進めるとともに、親が子育ての喜びを実感することができるように、家庭と地域が手をつないで、子どもが健やかに育つまちづくりを進めています。

きーほくん

Point 1 応援サイト「きほくファミラボ」

結婚・妊娠・出産・子育てを応援するサイト「きほくファミラボ」では、紀北町の子育てに関する情報をいち早く発信し、婚活イベントから、産後の過ごし方や子育て教室、小児科の情報までを幅広く網羅しています。「生後1～2カ月」から2カ月ごとに子どもの特徴と育児ポイントを記載した「年齢別育児アドバイス」も、子育てママにとって役立つ内容になっています。

http://kihoku-familabo.jp/

Point 2 体験活動が充実!「いきいき子ども学園」

子どもたちの居場所づくりとして、また子どもたちのさまざまな体験活動の場の充実をめざして、「地域の子どもは、地域で育てる。」というキャッチフレーズの下、「いきいき子ども学園」を開催しています。「いきいき子ども学園」には、「いきいき土曜日」と「わくわく水曜日」があり、地域の特性にふれる講座・文化的な講座・体育的な講座・防災について考える講座など多彩な内容で活動しています。

TEL　0597-46-3125
（紀北町　生涯学習課）

Point 3 親が気軽に子育て相談ができる場所

保育園などに子育て家庭をサポートするための専任職員を配置し、地域子育て支援センターとしてママが気軽に相談できる場所を提供しています。子どもは園庭や室内で遊んだり、保育園などの季節の行事にも参加でき、親の育児相談や地域の子育てサークルの紹介なども行っています。

［場所］

まんぼう（ひかり保育園内）
場所　長島1226
TEL　0597-47-0953

ぞうさん（かとう小児科内）
場所　東長島592
TEL　0597-47-3352

ひまわり（相賀幼児園内）
場所　相賀878
TEL　090-5615-5885

紀北町　福祉保健課
石倉 広紀さん（左）　宮原 由佳利さん（中央左）
長井 礼子さん（中央右）　疇地 啓太さん（右）

http://www.town.mie-kihoku.lg.jp

KOSODATE-INTERVIEW

親子が一緒にリフレッシュできる場を提供しています

紀北町子育て支援センター「ぞうさん」
保育士：上村 由美さん

施設内に小児科があり、いつでも医療相談を受けられます。月に一度院長による「子育てに関する医療の話」も、ママたちにとても人気です。プレイルームには保育士手づくりのおもちゃもあり、子どもたちの年齢に合わせて発達をサポートしています。また、イチゴ狩りやピクニック、料理教室なども行っています。料理教室では、ママたちに魚をさばいてもらい、子どもと一緒に食べてもらったりしています。ママたちによる歯磨き教室やヘアカット&アレンジ教室では、子どものヘアカットを教えてくれるほか、ママたち自身もヘアアレンジをして楽しんでもらえます。今後も気軽に利用していただき、子育て相談や親子のリフレッシュ、ママ友づくりの場にしていきたいと思っています。

熊野市　親子に寄り添う手厚いサポート体制

子育て家庭の経済的な負担を減らすため、市内の保育所・幼稚園の3歳児以上の保育料の無料化や、保育所・小学校などの訪問、継続した歯科検診や高校生まで医療費の助成を行うなど、さまざまな面から親子に寄り添い、子育てをサポートしています。

にいひめちゃん

Point 1 「こども発達支援室」を設置

平成26年度に新しく「こども発達支援室」を設置し、子どもの成長に合わせて、保健・教育・福祉の面から途切れのない支援をしています。例えば、保健師が保育所、小学校などを訪問し、子どもたちに寄り添いながらさまざまなことを子どもと一緒に考える機会を作っていますし、子どもの成長で気になることや不安なことをはじめ、子どものしつけ、DVの相談、家族に関わることなどをいつでも気軽に相談できる体制も整っています。保健師や教員、保育士、女性相談員など専門職員を配置し、それぞれの専門性を生かした支援が特徴です。

Point 2 乳歯からのむし歯予防を大切にしています

1歳半から4歳まで、1年おきの歯科健診と半年おきのフッ化物塗布、そして5歳、6歳は保育所、幼稚園でのフッ化物洗口と継続したむし歯予防に取り組んでいます。
定期的な歯科健診やブラッシング指導、相談によりむし歯の減少、予防につながっています。

Point 3 子育ての経済的負担を軽減

医療費に関する子育てサポートも進んでいて、子どもの入院、通院、薬剤に係る医療保険各法の規定による自己負担相当額を手厚く助成しています。また、ひとり親家庭の母、父およびその児童などを対象に医療費の助成を行っており、さまざまな環境の中で子育てをするひとり親を支援する制度になっています。

【子ども医療費助成制度】
・高校3年生までの子どもは、自己負担相当額の全額を助成

【ひとり親家庭医療費助成制度】
・18歳未満児を扶養しているひとり親家庭等の母または父及びその児童の自己負担相当額の全額を助成
・父母のない18歳未満児の自己負担相当額の全額を助成

熊野市　福祉事務所　児童福祉係
中本 みはるさん
TEL　0597-89-4111（代表）　内線162・163
http://www.city.kumano.mie.jp

子どもの力を信じたサポートをしています

KOSODATE-INTERVIEW

NPO法人「子どもステーションくまの」
理事長：田岡 陽子さん

私たちは、乳幼児と親たちの集いの場「こぐまの会」や学童保育、ファミリーサポートセンター（ともに熊野市委託事業）などの子育ち支援事業を行っています。「おはなしふぁん♪」という乳幼児を中心にした絵本の読み聞かせをはじめ、いろいろな活動の中で交流を深めながら、親子の自立支援をサポートし、子どものための専用電話のチャイルドライン事業にも参画させていただいています。活動の中で一番大切にしているのは、「子どもの力を信じた支援」をすることです。地域の子どもたちが自信を持って自ら考えて行動できるような大人になってほしいという思いを込めて、いろんなサポートをしています。さらに、地域の大人が子どもとともに育ち合うことを考えて、人材育成に重点を置いた仕組みづくりにも取り組んでいます。

御浜町 年中みかんがとれるまちで「のびのび子育て」を応援

子ども家庭室を中心に、子育て支援室や認定こども園などと連携して、地域ぐるみで子育てをサポートする仕組みをつくり、子どもたちがのびのび育つ環境づくりを進めています。

Point 1 出産から育児まで子育ての窓口を一元化

平成28年4月から健康福祉課に「子ども家庭室」が新設されます。これまで、子どもに関する窓口が分かれていましたが、一元化することでさまざまな相談や問い合わせなど出産から育児まで切れ目のないサポートが一つの窓口で継続してできるようになります。また、保健師や保育士などの専門職が常駐し、発達障がいなど、専門的な相談にも対応し、よりきめ細かなサポートを行います。

TEL　05979-3-0508

Point 2 0歳から5歳までOK 保育環境も充実!

町内には、阿田和保育所・市木保育所と認定こども園志原保育所の3つの保育施設があります。中でも、認定こども園志原保育所は、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設で、0歳児（生後6カ月）から5歳児までの保育を行っています。また、各保育所では園庭を開放して、遊び場として活用できるほか、子育て相談などにも応じています。身近なところで、安心して子どもたちが遊ぶことができ、子育ての悩みも気軽に話せる場所として活用されています。

Point 3 身近にあって安心 子育て支援の拠点

地域の子育て支援の拠点となるのが、認定こども園志原保育所内にある「子育て支援室」。ここでは、毎日の遊びの広場を開催し、歌や手遊びや絵本の読み聞かせ、親子のふれあい遊び、体操などを行っています。常駐する保育士が子育ての相談に応じ、電話相談にも対応しています。また、「用事を済ませたい」「少しだけリフレッシュしたい」「急に仕事が入った」など、誰かの手を借りて子どもを見てもらいたい時、理由を問わず一時預かりもしています。

TEL　05979-2-0336

御浜町　健康福祉課
室谷 好美さん

http://www.town.mihama.mie.jp

元気に楽しく育児をするための手助けをしています KOSODATE-INTERVIEW

御浜町子育て支援室
室長：新谷 さゆりさん

毎月、誕生会や親子工作などのイベントを行っていて、歯の健康や食について学べる講座も開催しています。3年前から保健師さんや看護師さんとともに、赤ちゃん訪問を行っています。また、ママたちの育児不安を少しでも和らげるために、1歳半や3歳児健診にも出向いています。健診後も保育所や保健師さんにつなげることで、一貫した子育てサポートができるようになったと思います。さらに27年度より、一時預かりを始めました。こじんまりとした支援室ですが、その分「ほっとできる親しみやすい場所ですね」という声もいただいています。地域のママたちが少しでも元気に楽しく育児をする手助けになれるようスタッフ一同頑張っています。

紀宝町 遊びから学習まで 地域で「子育ち」を応援

さまざまな環境の家庭を支える「子ども医療助成制度」や出産後の母子へのサポート、子どもの学習支援などが充実しており、出産から安心して子育てができる体制づくりが進んでいます。

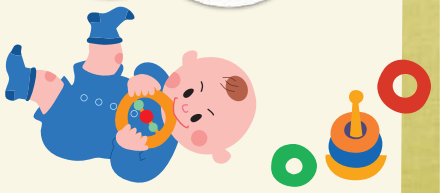
紀宝戦隊カメレンジャー

Point 1 子育て家庭にうれしい助成制度いろいろ

高校3年生までが対象の、充実した子ども医療費助成制度が魅力です。ひとり親家庭には、親の分の医療費を助成したり、子どもが小学校入学時に入学祝い金を送ったりする制度もあります。また第3子を出産した場合には、出産祝金として10万円、第4子以上には30万円が支給されます。

Point 2 宿泊型・通所型・訪問型 3つの体制で母子の心身をケア

赤ちゃんが生まれたら家族のサポートが不可欠ですが、さまざまな事情により、産後、家族などから十分な家事、育児などの援助が受けられないママもいます。そこで、心身の不調や育児不安を抱える人を対象に、出産後の母子への心身のケアや育児のサポートを行っています。町が指定した産院において、宿泊型・通所型・訪問型によるケアサービスを受けることができ、ママや子どもの生活リズムづくりと心身の安定を図るため、授乳指導や育児相談などを行っています。



Point 3 放課後の学習もサポート!

各小学校において、週2回、放課後約2時間の学習時間を設けて、講師が子ども一人ひとりに応じた個別の自主学習の支援を行う「放課後学習サポートスクール」を実施しています。また長期休業中にもサマースクール（夏休み中の20日間）、ウィンタースクール（冬休み中の5日間）の学習教室を実施し、きめ細やかな教育サポートを行っています。また小学生を対象に井田公民館と成川旧分庁舎3階で遊び場を開放しています。

TOPICS 子育てガイドブック

町で行っている妊娠・出産・子育てに関する支援、事業、情報を具体的にご紹介する『子育てガイドブック』。助成金関係、保健関係、相談・教室関係、障がいのある子ども・家庭への支援など、項目ごとにわかりやすくまとめられています。ホームページからもダウンロードできます。

紀宝町　子育てガイドブック　検索

紀宝町　福祉課
中野 良太さん
TEL　0735-33-0339
http://www.town.kiho.mie.jp

KOSODATE-INTERVIEW ママたちの思いに沿った支援をしています

紀宝町子育て支援センター
センター長：淡海 順子さん

昔は地域の人たちが隣の子どもの面倒をみることは普通でしたが、最近はそういう地域力が希薄になってきたので、子育て支援センターは今後、より必要なものになってくると思います。そんな状況をふまえ、私たちはママたちのさまざまな思いに沿っていけるようにファミリーサポート活動を行っています。子どもの一時預かりや送迎などが依頼できるファミリーサポートセンターは、町の助成制度も始まり、より利用しやすくなったと思います。利用者の方々には、時間内の活動報告書をお渡ししているので、「こういう遊びをしていただいたんですね。ありがたいです」という声をたくさんいただいています。今後はこの施設をもっと周知し、ママが子育てを楽しくできる環境をつくっていきたいと思っています。

三重県の子育て支援情報

＊不妊に悩む方への支援＊

●不妊治療、不育症治療にかかる助成制度

最大30万→男性不妊治療を含む場合は最大45万円（15万円アップしました）
※年齢や治療法によって助成が異なります。

●不妊専門相談電話

不妊専門相談センター（毎週火曜日10:00～20:00）　**059-211-0041**
※不妊や不育症治療に関する相談に女性の助産師・看護師が対応します。希望により面接相談も可能です。

＊ひとり親家庭への支援＊

●保育料の軽減（H28.4～）

年収360万未満のひとり親世帯への支援が拡充され、**第1子の保育料は半額、第2子以降の保育料は無料**になります

●児童扶養手当

前年の所得に応じて
子ども1人の場合最大月額42,330円、2人の場合月額47,330円の手当が支給されます。

（例）年収200万円（所得135万円）で幼稚園児1人、小学生1人のひとり親家庭の場合
→月額39,840円支給

●大学等の進学費用の貸付（母子父子寡婦福祉資金貸付金）

【国公立大学（自宅通学）】月額45,000円+37万円（支度資金）※無利子
返済は卒業後10年間で月額約21,000円
【私立大学（下宿）】月額96,000円 + 59万円（支度資金）※無利子
返済は卒業後10年間で月額約43,000円
この他にも貸付制度があります。

059-224-2271（県子育て支援課）※面談など手続きが必要です。

●就業や生活に関する相談

生活に伴うさまざまな悩みや困りごとを抱える方の相談をお受けしています。

三重県母子・父子福祉センター
059-228-6298（月曜～金曜10:00～17:00　第1、第3日曜10:00～16:00）

みえの子ども応援プロジェクト

県では、「みえの子ども応援プロジェクト」として、子どもの笑顔と子育ての喜びがあふれる地域社会づくりを進めることを目的に、地域の団体・企業等の連携や、子育て家庭を支援する活動の場の提供、すべての子どもが豊かに育つ環境づくりなど、さまざまな取り組みを行っています。

みえ次世代育成応援ネットワーク

三重の子どもたちがいきいきと育ち、家族が子育てに喜びを感じられるような社会をめざして、地域の企業や子育て支援団体が参画し、活動している組織です。

～こんな活動をしています～
- 子育て応援わくわくフェスタ
- 子ども虐待防止啓発キャンペーンへの参加　など

子育て家庭応援クーポン

**三重県では、子育て家庭を社会全体で応援するため、
18歳未満の子どもがいる世帯、妊娠中の方がいる世帯を対象に、
「子育て家庭応援クーポン」を発行しています。**

全国共通 ソダテ

子育て家庭応援クーポンを県内のスーパーマーケットや飲食店などの協賛店で提示すると、割引やサービス等の特典が受けられます。

協賛店はステッカーが貼られているお店のほか、三重県のホームページからも検索できます。

みえ子どもスマイルネット　検索

全国でも使用できるようになります。
平成28年4月から41道県のクーポンと相互利用を開始し、利用できるエリアを大幅に広がり、さらに便利になります。
今後、順次利用できるエリアを広げ、平成29年4月には、全国47都道府県で利用できるようになります。
※平成28年10月～東京都、山梨県、大分県、沖縄県　平成29年4月～大阪府、神奈川県
各都道府県の協賛店舗は、全国共通マークが貼られているお店のほか、内閣府のホームページからも検索できます。

【問い合わせ先】
三重県　健康福祉部　子ども・家庭局　少子化対策課
津市広明町13番地
TEL:059-224-2404　FAX:059-224-2270
電子メール:shoshika@pref.mie.jp

みえ子どもスマイルネット　検索